２０１９年１２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１９日（木)、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、１月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
委　　員	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	川井田祥子	（鳥取大学地域学部　教授）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）

＜放送番組全般について＞

○　１１月１４日(木)「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」で松江市にある企業でのテレワーク導入に関する特集を見た。東京オリンピックや働き方改革を背景にテレワークが注目されていることは知っていたが、多元中継によるテレビ会議などが紹介され、実際に取り組みが進んでいることに気付かされた。サテライトオフィスやＩＴ企業誘致など先進的な取り組みで知られる徳島県神山町は、ＮＨＫの番組がきっかけで知名度が上がったそうだ。松江市での事例についても全国放送で紹介していただき、多くの人に知ってもらうきっかけになればと思う。

（ＮＨＫ側）

島根県においてテレワークは今後ますます広がっていくと予想される。今後も取材を継続して新しい動きなどを探り、全国発信を目指し

たい。

○　１１月２７日(水)「いろ★ドリ」内の特集「とっとり深ボリ　劣悪なインドのトイレ　改善目指す米子の企業」を見た。米子市の企業が開発した維持管理に手間のかからないトイレの導入により、インド各地における公衆トイレの環境改善のほか、トイレ運営に伴う雇用の創出、屋外排泄の減少による治安改善など、多くの面で社会に役立っていることを知り、とても感心した。取材を行った女性記者自身が、インドでトイレを使用するのに非常に困ったという実体験を伝えていたことで、身近な問題として感じることができた。こうした取り組みが実現した背景や、共に問題解決に向け取り組む団体などについても知りたかった。また、１２月５日(木)「いろ★ドリ」内の特集「トリ★トーク　ルワンダ大虐殺２５年　心の傷に寄り添う女性」を見た。鳥取県出身で長年世界の紛争地域における支援を続け、いまはルワンダで活動する看護師の竹内緑さんが、ルワンダで起こった悲劇の原因は少数民族に対する偏見や差別であり、このような状況は日本でもすでに静かに進行しているのではないかという問題提起は、的を射ていると感じた。竹内さんの「心の雑草を引き抜いていかないといけない」という言葉が非常に胸を打った。彼女が昨年ＮＧＯを設立し活動を始めたと語っていたが、番組の中では団体名は紹介されなかった。このような団体を応援したい人は少なくなく、ぜひ情報を提供してもらいたかった。

（ＮＨＫ側）

「とっとり深ボリ」について、主にトイレの普及による環境改善に主眼を置いた。この取り組みが進んだ背景や全体像などについて、もう少し触れられたら良かった。「トリ★トーク」について、今後も丁寧な情報提供に努めたい。

○　１１月２９日(金) 松崎しげるとももクロのくろ旅「鳥取県」を見た。番組が設定した「大黒柱・苦労話・玄人」というテーマに沿って出演者たちが旅で出会った人に質問するのだが、相手が答えに窮するシーンがあり、一般の人から話を引き出すことの難しさを感じた。一方で、「黒」という文字がつく地名を巡ることにより、ふだんあまりスポットライトが当たらない町を知ってもらう機会になるのではと思った。筋書

きのない旅なので「鶴瓶の家族に乾杯」などと比較されてしまうかもしれないが、今後も独自の切り口で制作し、中国地方のさまざまな土地を知ることができるような番組を期待する。

○　１１月２９日(金)の松崎しげるとももクロのくろ旅「鳥取県」を見た。過疎化が進む地域もあるので、地元の人と出会い、番組の設定するテーマに沿ったエピソードを引き出していくことは大変な作業だと思うが、期待もしている。黒坂駅前で長年たい焼きを販売している男性に出会った際、人通りが少ない環境でどのように店を続けてきたのかなど、もう少し話を深掘りしてほしかった。ももいろクローバーＺのメンバーが旅先で体験した出来事にまつわるエピソードを紹介すれば、訪ねた場所がより身近に感じられるだろうし、ファンをはじめ視聴者の興味を引き付けることができ、ロケ地を旅するなど新たな動きが生まれるのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、「玄人」や「苦労人」「大黒柱」というテーマを通じて話を聞き、プロフェッショナルへの敬意、努力の大切さ、家族や地域の絆を中国地方の皆さんに伝えたいというねらいがある。番組の最後には、松崎しげるさんが歌を披露するが、これはこの番組独自の魅力だと自負している。中国地方５県すべてを旅する予定で、それぞれの県での出会いを通じて、この番組の魅力をより高めていきたい。

○　１２月６日(金)のラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「ともに働き　暮らすために～外国人労働者　受け入れの課題～」を見た。いま中国地方で外国人労働者を巡ってどんなことが起きているかということを、具体的なデータや事例を用いて紹介していたので、非常に分かりやすく説得力があった。ＳＮＳを通じて外国人労働者同士が情報交換を行い、問題を抱えている人と社会支援とを結びつけた事例や、逆に不法就労のあっせんにつながった事例は、非常に興味深かった。外国人労働者に関する各地の実情を知ることはできたが、制度の問題点や、彼らを受け入れる社会のあり方、私たちの意識の持ち方など、まだまだ議論すべき課題があるので、続編の制作を期待したい。

○　１２月６日(金)のラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「ともに働き　暮らすために～外国人労働者　受け入れの課題～」を見た。中国地方の現状をデータとともに知ることができたのは非常によかった。身近な問題を取り上げることは、地域放送局の強みだと感じた。中国地方を俯瞰（ふかん）して取り上げるだけではなく、各県ごとの実態に焦点を当てた続編を制作してもよいのではないかと感じた。一方で、制度上の問題点についてはもう少し踏み込んでほしいと感じた。外国人労働者が来日する際の経済的負担や、彼らを送り出す側の国々の実情など、この問題にはさまざまな背景があると思うので、それらの点についてもぜひ焦点をあててほしい。また、番組を観ていて、広島県の事例なのか、島根県の事例なのか、少し分かりにくい部分があったので、きちんと整理して制作してもらえるとなおよかった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、広島局と松江局が中心となって制作した。中国地方各県でも外国人労働者に関係する問題が顕在化しており、制度面での課題をはじめさまざまな面から検証していきたい。各地に根ざす放送局だからこそ気付くことができる課題があると考えている。今回の外国人労働者の問題だけでなく、防災・減災に関する話題、過疎の問題など中国地方の各地域に共通するテーマで各県の実態に迫るような番組を発信していきたい。

○　１２月６日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「ともに働き　暮らすために　～外国人労働者　受け入れの課題～」を見た。「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」の特集でも外国人労働者の問題を取り上げていたが、今回は広島県と島根県における実態を取りあげ､技能実習生についても丁寧に説明していたので､大変分かりやすく、参考になった。受け入れ体制の不備などにより外国人労働者の失踪が相次いでいることなど、諸問題の原因を追究していたのに、最後は「コミュニケーションが大事」と締めくくっていたのを見て、唐突な印象を持った。外国人労働者だけでなくその家族が地域にもたらす影響も大きく、外国人労働者に関する問題はますます複雑化していると聞く。身近な外国人労働者とのコミュニケーションの取り方などは日常生活において必要な情報でもあり、今後もこの問題について深掘りしてほしい。

（ＮＨＫ側）

外国人労働者というテーマには多くの問題が含まれていると感じている。外国人労働者を送り出す側の課題についても取材を行っていくなど、続編の制作について検討したい。

○　１２月６日(金) Ｙスペ！「日本の田舎に価値あり！～山口市・阿東　中国人の新ツーリズム～」を見た。山口市の阿東地区を訪れる中国人観光客が増加しているが、その背景にはＳＮＳなど個人のネットワークの活用があると知り、観光客を呼び込む新たな方法だと感心した。日本の家庭料理や、図書館に漫画や本がたくさん並んでいる様子を見て旅行者が喜ぶ姿が新鮮に映った。一方で、彼らがなぜ自分の国ではなく日本の田舎を求めて訪れるのか、その理由が知りたかった。また、中国人観光客がどの程度増加しているのか具体的な数字を示してほしかった。

○　１２月６日(金) Ｙスペ！「日本の田舎に価値あり！～山口市・阿東　中国人の新ツーリズム～」を見た。中国から阿東地区への新しい人の動きは県民にとって関心が高いと思う。過疎化と地域経済の沈滞に悩む地域が多いなか、その解決の糸口になるとてもよい番組だった。一方で、この動きに関連して、何か課題や問題点はないのか気になった。引き続き取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

阿東地区が中国人に非常に人気があるという動きを主眼に制作したため、その背景や問題点まで織り込むことができなかった。２５分という限られた時間の中で、どこまで完成度の高い、質の高い番組が作れるかが「Ｙスペ！」の課題だと考えている。

○　１２月７日(土) Ｊリーグ「サンフレッチェ広島」対「ベガルタ仙台」(総合　後1:50～4:05　広島・宮城県域)を見た。スポーツという筋書きのない出来事を放送するということはすごいことなのだと改めて実感した。曽根優アナウンサーの実況は非常に落ち着いていて好印象だった。ボールの一つ一つの動きを的確に解説し、聞いて

いるだけで試合の情景が浮かんでくるようで非常に感心した。一方で、解説者のコメントは淡々としており、ややもの足りなさを感じた。ハーフタイム中に流れた両チームのシーズンを振り返る映像について、ベガルタ仙台のほうは、開幕戦からの展開や選手の活躍などが時系列に沿って紹介されており、１年を振り返るにはよい構成だったと感じた。しかしサンフレッチェ広島のほうは、若手選手の台頭を中心にまとめられていたため、各選手の活躍やチームの動きを時系列で振り返ることができず、見づらさを感じた。

（ＮＨＫ側）

曽根アナウンサーは主にサッカー中継を担当しており、最近では女子のサッカーワールドカップ決勝の実況も担当した。サッカーに精通しており、さまざまな戦術を想定しながら実況しているため、状況に即したコメントにつながっている。

○　１２月１０日(火)「もぎたて！」で、プロゴルファーの渋野日向子選手の特集を見た。渋野選手が母校の岡山市立平島小学校を訪れ小学生と交流する様子に好感を持った。渋野選手の話を真剣な表情で聞く小学生の姿も印象的だった。また、同じ日の放送で、シリーズ「海外に活路を」の第１回を見た。セーヌ川に沈んだ船を引き揚げた後に、その船と陸とをつなぐステンレス製の桟橋を製造する山口県の企業が取り上げられており、加工技術の高さに驚くとともに、中国地方の企業が海外で活躍する姿に好印象を持った。

（ＮＨＫ側）

渋野選手の地元は昨年の西日本豪雨により大きな被害を受けた。渋野選手はその地域の復興のシンボルのような存在でもある。地域を元気にしていくためにも、渋野選手の動向を引き続き伝えていきたい。

（ＮＨＫ側）

シリーズ「海外に活路を」は、中国地方５県それぞれと海外との結びつきをテーマに企画したものだ。今後も地方銀行や戦後７５年などを

テーマに、中国地方各県にまたがったシリーズ企画を検討している。

○　１２月１３日(金)の“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「カネを生み出す町！広島市佐伯区」を見た。佐伯区に造幣局があるということを初めて知った。ほかにも、業務用厨房機器のリサイクルショップや、売り切れ必至のオオサンショウウオの形をしたこんにゃくを取り上げていたが、番組のタイトルに少々違和感を覚えた。オオサンショウウオのこんにゃくは、鉄板で焼く時の様子がとてもユニークでかわいらしく興味を持った。

（ＮＨＫ側）

地元の高校生のアイデアから誕生したオオサンショウウオのこんにゃくが、地域の活性化につながっていることから取り上げた。タイトルは、硬貨を生み出す造幣局の町と、農家や食品会社に富を生み出すオオサンショウウオこんにゃくを引っかけて付けた。さらにブラッシュアップしていきたい。

○　１２月１３日(金)　＠ｏｋａｙａｍａ「変わる！？　社会の中の“男女”」を見た。トランスジェンダーの方とその母親が顔と本名を出して出演しており、取材先との信頼関係が構築できていると感じた。戸籍上の問題や就職への不安など当事者の本音を知ることができ、問題意識を持って見ることができた。大学生が性自認の問題について語り合う場面があったが少し冗長だと感じたので、代わりに専門家の意見やトランスジェンダーの受け入れが進む海外の例などを紹介してもらいたかった。

（ＮＨＫ側）

大学生の議論については、若者の受け止め方を取りあげることで性自認に関する多様な意見を伝えたいという意図があった。海外の事例紹介については検討したい。

○　１２月１３日(金)さんいんスペシャル「八雲が愛した神々の国」を見た。「怪談」など小泉八雲の有名な作品とともに松江市の美しい風景の紹介がある一方で、

「加賀の潜戸」とともにあまり知られていないこの景勝地を取り上げるなどバランスがよく、よい番組だった。松江市の偉人といえば松平不昧公や小泉八雲らが思い浮かぶが、全国的にはあまり知られておらず、新たな切り口から取り上げて有名にできないかと常々感じている。

（ＮＨＫ側）

山陰地方の天気は変わりやすく、松江市の美しい景色を撮影するために大変苦労した。この番組は今月末に　ＢＳ４Ｋで放送される予定で、引き続き島根県各地の話題を全国に発信したいと考えている。

○　１２月１３日(金）Ｙスペ！「魅力を体感！山口の山に行こう　Ｓｅａｓｏｎ２（名峰編）」を見た。松岡孝行アナウンサーが非常に生き生きと登山を楽しんでいることが伝わってきた。登山のコツや見どころを的確に説明してくれたのがよかった。取材したのが紅葉の時期だが、季節の移り変わりによってどのように景色が変化するかということまで言及していたので、視聴者にとって親切だったと思う。特に岩国市の寂地山の風景がすばらしかった。

○　１２月１３日(金）Ｙスペ！「魅力を体感！山口の山に行こう　Ｓｅａｓｏｎ２（名峰編）」を見た。周南市の莇ヶ岳には垂直に近い鎖場があり、冒険気分が楽しめる山だと紹介があったが、鎖を使った安全な登り方について紹介されており、分かりやすかった。登山の初心者、経験者それぞれに向けた情報を切り分けて伝えてほしかった。登山が好きだというアナウンサーが、少々はしゃぎすぎている印象を抱いた。山口県民にとって山は身近で関心が高いテーマなので今後も継続してほしい。「Ｙスペ！」は好きな番組で、山口の知られざる歴史や街歩きなども期待したい。

（ＮＨＫ側）

松岡アナウンサーは登山が趣味で山の魅力をよく知っており、分かりやすいコメントができたのだと思う。伝え方については、気を付けたい。

○　１２月１７日(火)「もぎたて！」で、聖火リレーに関するニュースを見た。木下愛子キャスターが岡山県内の聖火リレーのコースを実際に走る様子に好感を持った。また、1964 年の東京オリンピックの聖火ランナーにインタビューしていたが、当時の心情や周囲の反応を語る姿が印象的だった。

（ＮＨＫ側）

聖火リレーについては、県内各地の当日の様子をまとめた番組を制作し、発信したいと考えている。インターネットでも聖火リレーの様子を配信する予定だ。

○　１１月３０日(土)ブラタモリ「岡山～“岡山といえば桃太郎”なのはナゼ？～」を見た。岡山県出身の歴史学者の磯田道史さんの案内に熱意と勢いが感じられ、視聴意欲が高まった。桃太郎伝説誕生の裏付けと感じられるような歴史上の場所や人物が次々に紹介され、謎解きがテンポよく進む構成に演出の妙を感じた。桃太郎伝説に関連するとされる遺跡や神事についても改めて詳細に知ることができ、視聴した方は岡山県在住か否かを問わず訪ねてみたいと感じたのではないか。

（ＮＨＫ側）

今後も岡山県の魅力を全国に伝える番組制作に務めたい。

○　１１月３０日(土)ＮＨＫスペシャル「ボクの自学ノート～７年間の小さな大冒険～」を見た。番組のなかで、北欧の教育と日本の教育がどう違うのかということが取り上げられており、優秀な人材はどのようにすれば育つのかということを考えさせられた。また、色や陰影が鮮やかで明るい映像が使われていたため、全体的に軽やかなよい雰囲気を醸し出していたのが非常によかった。少年がノートにつづった内容を、ところどころアニメーションで表現するなど凝った作りになっており、とてもおもしろく視聴できた。

○　１２月１日(日)～８日(日)「首都直下型地震ウイーク」を見た。ＮＨＫでしかできないスケールの大きいシリーズで非常に印象に残った。ドラマ仕立てにすることで、

自分が巻き込まれたらどうなるかということを疑似体験できたのではないかと感じた。スタジオパートでは小野文恵アナウンサーの進行が絶妙で、議論を深めていく進め方はすばらしかった。首都圏でひとたび災害が起きれば、個人や地域社会、国だけにとどまらず、世界規模でも危機的な状況に陥る可能性があることを突きつけた、非常に意味のある、公共放送らしい番組だった。

○　「ラウンドちゅうごく」をはじめ、広島県や中国地方の番組を見ていていつも感じるのだが、地域放送番組についてもオンデマンドで見られると非常にありがたい。業界全体が大幅にネットに移行していくなかで、地方で制作した良質の番組が他の地域では見られないのは、とても残念に思う。今の技術をもってすれば、ストリーミングサービスなどを通じてどこでもテレビが見られるような環境が実現できるのでは。テレビや録画機器を持たない人も増えている昨今、パソコンなどの別の機器で自由に番組を楽しめるようになるとよいと思った。

（ＮＨＫ側）

放送法が改正され、ＮＨＫが実施しようとしている常時同時配信、見逃し番組配信サービスでは、地域放送番組の配信も計画しているが、委員が指摘するようなサービスの実現には、もう少し時間がかかるのではないかと思う。現在、地域放送はブロック単位または都道府県単位で放送しているが、例えば地元を離れていてもその地域の情報を得たいというようなニーズは存在すると感じる。テレビを持たない人も増えてきており、これらの動きに対応していかなければと、危機感を感じている。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　１１月２９日（金）松崎しげるとももクロのくろ旅「鳥取県」を見た。島根編に続き今回も「大黒柱・苦労話・玄人」というテーマに沿って、行き先やミッションをくじで決めるという演出により、各地ですばらしい出会いもあり、「鶴瓶の家族に乾杯」に似たものを感じた。偶然出会ったパン屋さんで、おばあちゃんを大黒柱に据えた家

族愛の温かさを感じ、心が温まる気持ちになった。シリーズの今後にも大いに期待している。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年１１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木)、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、１２月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	川井田祥子	（鳥取大学地域学部　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）

＜放送番組全般について＞

○　１０月１８日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「“ひとりで逃げられない人”を救え！命を守る最新の避難方法」を見た。台風１９号の本州上陸の直後であったこともあり、当事者意識を持って見ることができた。行政関係者をはじめ地域自治組織の運営に携わる方などにぜひ見てもらいたい内容であった。避難所の環境改善に関する指摘など、ゲストの片田敏孝さんの解説も的確であり、地方自治体の運営にも役立つような内容だったと思う。

（ＮＨＫ側）

どうすれば防災、減災につながるのかを考えていくため、今後求められる対策をはじめ、対応に追われる地方自治体が抱える課題など、今後も深く掘り下げて取材していきたい。

○　１０月１８日(金)＠ｏｋａｙａｍａ　イッピン「ふだん使いを美しく　なつかしモダン～岡山の焼き物～」を見た。ふだんの生活で使う焼き物でありながらも、一つ一つの器が丁寧に作られていることがよくわかる内容であった。特に陶芸に関わる方や興味のある方には参考になる内容だったと思う。映像と音楽、ナレーションのバランスがよく、楽しく見ることができた。

（ＮＨＫ側）

「備前焼祭り 2019」の開催前日という時宜を得た放送をすることができ、焼き物に対する視聴者の興味関心に応えられたと思う。

○　１０月１８日(金)さんいんスペシャル「テレビｄｅやしろ荘」を見た。出演者がそれぞれの思う鳥取県のよいところや好きなところを愛情をもって語り合うところに共感を覚えた。初めて知ることもあり、鳥取県の魅力を再発見することができた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、ラジオ番組「やしろ荘でごにょごにょ」の収録と同時に、テレビ番組としても収録を行って制作した。ふだんのラジオ番組では伝えきれない部分を見せようと企画したものだが、視聴者から予想以上に好評意見をいただくことができたので、続編の制作を予定している。

○　１０月２５日(金)「さんいんスペシャル　√るーとｈｉｇｈ↑２　ザ・ディレクソンとコラボしてバズるドラマ撮っちゃうぞ！」を見た。鳥取県の魅力をドラマで発信するという番組だったが、地域住民が撮影に参加していることに加え、出演者の地域への愛情をひしひしと感じることができ、非常に親近感を覚えた。

（ＮＨＫ側）

９月６日(金)ザ・ディレクソン「ｉｎ鳥取　“取鳥”じゃないで！」(総合 後 7:30～8:13 鳥取県域)に参加した方々に改めて集まっていただき、ドラマの出演者として参加していただいた。

○　１１月１日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「日韓対立と言うけれど～世代間ギャップの深層～」を見た。政治的な側面から取り上げられがちなテーマを若い世代の視点を通じて捉えており、とても関心をかきたてられた。若い世代は能動的に情報収集を行い、自らの感覚や価値観に基づいて交流を図っていることが分かり、さまざまな視点からものごとを見ることの大切さ、自分で考えることの重要性を改めて考えさせられるいい番組だった。

○　ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「日韓対立と言うけれど～世代間ギャップの深層～」を見た。日韓関係の悪化が報じられる中、かなり刺激的で議論を呼びそうな番組だと感じたが、若い世代の情報収集能力の高さや意志の強さ、自ら判断して行動する姿に非常に感心した。韓国の大学生がスタジオ収録に電話インタビューで参加して自らの思いを語っていたが、その飾らない率直な意見がとても心に響いた。

（ＮＨＫ側）

若い女性を中心に韓国に対する根強い関心があることもあり、世代間における相違点を追求しようと考えた。親韓的すぎるという視聴者からの意見もあったが、日韓の若者たちが互いに認め合っていることが伝わったという声もあった。今後も多様な視点に基づいた番組制作を行っていきたい。

○　１１月８日(金)　「お好みワイドひろしま特別編　ＮＨＫ広島×広島テレビ　コラボ企画」(総合 後5:30～6:59 広島県域)を見た。訪日外国人観光客の広島県における滞在時間を延ばすことで観光収入を増やしていこうと、県を挙げて取り組んでいることについて、２つのテレビ局のそれぞれの企画を見て理解を深めることができた。しかし、ＮＨＫ単独でも制作できるような内容であり、広島テレビとコラボレーションを行うメリットや意義を感じることはできなかった。

（ＮＨＫ側）

地域放送局としての課題解決力、情報発信力の強化を図るため制作

協力し、同時放送を実施している。ＮＨＫと広島テレビの視聴者を合わせれば、ＮＨＫだけで放送するより、多くの視聴者に同じ放送を見ていただくことができる。広島県における共通する課題については、今後も県内のさまざまなマスメディアと協力して、より多くの視聴者に考えていただく機会を設けていこうと考えている。

（ＮＨＫ側）

他社との交流を通じて刺激を受けることで、人材育成にもなると考えている。新たな番組制作手法の開発にもつながると考えており、今後に期待してほしい。

○　１１月８日(金)＠ｏｋａｙａｍａ　芸人先生　特別編　ｉｎ　岡山「古坂大魔王」を見た。全国・海外へのＰＲに課題を感じている岡山県の中小企業に対し、ＳＮＳを通じて世界中の人々に親しまれている古坂大魔王さんが講師役を務めたのは、キャスティングの妙を感じた。しかし、マーケティング方法の解説の場面でカタカナの専門用語が多く使われていたため、言葉の意味が理解できない視聴者もいたのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、Ｅテレで放送した番組を地域放送向けに作り直したものだ。特定の興味関心を持った視聴者が比較的多いＥテレとの違いを考えると、総合テレビで放送する際には、幅広い視聴者層を意識して用語説明のスーパーを増やすなどの工夫が考えられる。指摘は今後の参考にしたい。

○　１１月８日(金)Ｙスペ！「関門海峡　動く青」を見た。関門海峡の歴史や海上輸送路としての重要性について理解が深められた。また、潮の流れや夜景の美しさを映し出した撮影技術の高さに驚いた。番組の最後に、作家の司馬遼太郎さんも関門海峡の風景を好んだことが紹介されており、すがすがしい気持ちで見ることができた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、山口放送局と北九州放送局が協力して制作した。地域の誇りの一つでもある関門海峡の歴史や風景の美しさが伝わり、よかった。

○　１１月１１日(月)「もぎたて！」で、「おかやまマラソン 2019」の特集を見た。岡山放送局の勝川沙友里キャスターや木下愛子キャスターが、民放各局のアナウンサーや、有森裕子さんと交流する様子が新鮮で、興味を持って見ることができた。また、木下キャスターがフルマラソンを走破した様子を見て感動を覚えた。番組の冒頭で一部音質が悪く、聞き取りづらい部分があったのは残念だった。

（ＮＨＫ側）

木下キャスターの力走のおかげで、より面白い番組にすることができた。音質の問題については、原因を調べて対応を検討し、今後に生かしていきたい。

○　１１月１３日(水)「いろ★ドリ」で、鳥取県出身１７歳の床山を取り上げた特集を見た。中学校卒業と同時に床山になる決心をし、修行を積む若者の姿に勇気づけられた。進路に悩む若者を励ますためにも、自分自身で進路を切り開く若者の姿を今後も伝えていってほしい。

（ＮＨＫ側）

鳥取県は県内の大学を卒業した学生が、県内に就職するケースが少ないという地域的な課題を抱えていることもあり、今後も若者の進路について考える企画を放送していきたい。

○　１１月１５日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「東京 2020 へ！　山陰山陽のアスリート」を見た。大舞台に向けて中国地方各地で練習を続けている選手について知ることで、東京オリンピックを身近な話題として捉えることができ、好感の持てる番組だった。また、奥出雲町が 1982 年の国民体育大会でホッケー競技の会場となって以来、町を挙げてホッケーを振興し、オリンピック選手の輩出を目指してき

たことを知り、興味を持って見ることができた。

（ＮＨＫ側）

中国地方の各放送局がそれぞれの地域の取材を行い、映像素材を持ち寄って制作した。東京オリンピックを控えて関心も高まってきており、引き続き郷土のアスリートの動向に注目していきたい。

○　１１月１５日(金）テレビ６０年、とっとりと。～食欲＆芸術の秋スペシャル～(総合 後 7:30～8:42 鳥取県域)を見た。番組で取り上げた、きょうの料理「ふるさとの味・大山おこわ」（昭和５２年放送）と「鳥取民藝夜話」（平成２４年放送）を見て、大山おこわと鳥取県の民芸品についてそれぞれ理解が深まった。過去の番組を通じて鳥取県の姿を見つめ直すことができ、興味を持って見ることができた。番組内で、伝統技術の継承に努力する若手の民芸作家を取り上げていたが、当時若手だった民芸作家の現在の状況についても紹介してほしかった。

（ＮＨＫ側）

現在、民芸の現場では、若い世代が次々に出てきているところだ。今後も放送を通じて、地域に息づく貴重な伝統や文化を広めていきたい。

○　１１月２０日(水)「お好みワイドひろしま」で、ローマ教皇の特集を見た。３８年前の教皇来日時に原爆資料館で教皇を案内した元館長の高橋昭博さんを取り上げていたが､当時の状況を丁寧に取材しているのを見て､３８年前の記憶が呼び起こされた。今後もこの「お好みワイドひろしま」をはじめ、平和記念式典中継やドキュメンタリーなどさまざまな番組を通じて、ＮＨＫらしい丁寧で多様性を重んじる番組作りを期待するとともに、新たな挑戦も重ねていってもらいたい。特に平和記念式典については、全国放送でも式典の最後まで中継してほしい。

（ＮＨＫ側）

被爆体験をいかに継承していくかが､大きな課題となっている。今回

は若い記者が広島の歴史を伝えることを主眼に企画を制作した。

○　１１月２０日(水)「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」を見た。石見神楽を取り上げた「西日本の旅」のコーナーに興味をひかれた。ふだんこの番組をよく見ているが、曜日ごとの特徴を感じられないのが残念だ。

（ＮＨＫ側）

曜日を決めてデータ放送を利用したコーナーを新設するなど、試行錯誤しながらさまざまな工夫を考えているところであり、今後に期待してもらいたい。

○　１１月１０日(日)小さな旅「牡蠣（かき）島の秋～広島県　江田島市～」を見た。江田島焼きという地元の焼き物の材料にかきの貝殻を使うことを知り、地産地消を体現していると思い、感心して見た。しかし、作り手の紹介が中心で焼き物そのものの紹介が少なかったことと、番組としての特色があまり感じられなかったことが残念だった。

○　１１月１４日(木)クローズアップ現代＋「日本酒が“世界酒”に～ＳＡＫＥ革命～」を見た。近年の日本酒の進化や海外進出について詳しく紹介されており、取材力の高さに驚かされた。世界的に有名なシャンパン製造会社の最高責任者が来日して日本酒造りに挑戦していることなど、個々の事例も分かりやすく紹介されており感心した。また、ソムリエの田崎真也さんの解説が分かりやすく、日本酒の魅力がよく伝わった。

（ＮＨＫ側）

田崎さんには、１０月１１日(金)さんいんスペシャル「地方発クラフトビールブームの舞台裏」にも出演していただいた。出演者の知識をより生かすことができるよう、演出方法などを工夫していきたい。

○　１０月２７日(日)日曜美術館「わしがやらねばたれがやる～彫刻家・平櫛田中～」を見た。岡山県出身の彫刻家、平櫛田中の代表作である「鏡獅子」制作当時の写真や

映像は、非常に貴重なものであり、作品の理解につながったと感じた。また、さまざまな視点から掘り下げて紹介されており、平櫛田中の内面にも迫る番組だった。

（ＮＨＫ側）

丹念な取材に加え、制作当時の映像を使用することで、作家への親近感を抱いて頂けたのではないかと思う。

○　１１月１０日(日)　ＢＳ１スペシャル「女優たちの終わらない夏・終われない夏」(ＢＳ１　後 7:00～7:50、8:00～8:49)を見た。戦争を経験した女優たちによる原爆朗読劇が終演を迎えるまでを丹念に取材した秀逸なドキュメンタリーで、女優たちに息づく平和への願いや崇高な精神までもが感じられる秀作だった。

○　１１月１８日(月)～２１日(木)「にっぽん縦断　こころ旅　朝版」を見た。目的地と交通手段しか決まっていないという筋書きの無い番組であり、次に何が起きるのかと興味を持って見ることができた。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　１１月１５日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「東京 2020 へ！　山陰山陽のアスリート」を見た。ホッケースタジアムを使用して、東京オリンピックを目指す女子ホッケーチームの練習風景を背に番組を収録していたが、実際にホッケーを体験するなど工夫を凝らした演出も無く、スタジオでも撮影できる内容だったと感じた。中国地方を拠点に練習を続けるメリットについて、為末大さんの解説に説得力があった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年１０月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１７日（木)、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、１１月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

副委員長	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）

＜放送番組全般について＞

○　９月２０日(金)ラウンドちゅうごく「食と人生の交差点　団地の食堂物語」を見た。食堂という一つの切り口から番組を作っていたことで地域性が感じられ、とてもいい制作手法だと思った。広島局制作の「ラウンドちゅうごく」のパターンなのか、いつも２つの取材対象を取り上げて制作しているように感じる。今回は、７０代女性が手弁当で営む地域の集会所のような食堂と中国残留孤児２世が営む中国料理店の２つ。２５分という限られた番組時間で２つの話題を取り上げると、番組を通じて何を伝えようとしているのかが曖昧になる気がする。

（ＮＨＫ側）

番組のテーマに応じて、どうすれば視聴者に内容が伝わりやすいかを考えて制作している。２つの取材対象を取り上げて制作するという

決まりごとはない。１つの取材対象に絞って制作している場合もあるが、たまたま２つの取材対象を取り上げたものが続いたために、そのような印象になってしまったのかもしれない。

○　９月２０日(金)「テレビ６０年、とっとりと。～夏～」を見た。番組の前半で取り上げた、新日本紀行「砂丘農民～鳥取海岸～」（昭和４４年放送）では、砂との格闘を続けて畑を開墾し現在の繁栄へとつながる基礎を築いた農家の努力がひしひしと感じられた。番組後半で取り上げた、小さな旅「神秘のお堂に心ひかれて　～鳥取県三朝町～」（平成１３年放送）では、三佛寺投入堂を訪ねた様子が放送され、危険な山を登り撮影した迫力ある映像が印象的だった。過去の番組を通じて故郷の姿を見つめ返すことができたと同時に、時代の移り変わりや経済の発展を実感できるいい番組だった。

（ＮＨＫ側）

「テレビ６０年、とっとりと。」は、四季をテーマに４回シリーズで放送しており、今後は１１月と２月にそれぞれ放送を予定している。新旧さまざまな地元の姿を視聴者に伝えることで、故郷の新たな一面を見つけていただきたいと考えている。

○　９月２０日(金)Ｙスペ！「潮風と浪漫あふれる旅へ　門司港～萩・後編」を見た。ふだんよく利用する道が出てきたが、番組を通じて見るとまるで海外の風景に感じられるほど映像が美しく印象的だった。角島の海もふだんから美しく感じられるのだが、空から撮影したエメラルドグリーンの海を見て改めて感動した。海沿いを走るワンマン列車が、外国人の視点ではかわいらしいものに映ることを知り、新鮮に感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、国際放送のＮＨＫワールドＪＡＰＡＮで放送した「Ｔｒａｉｎ　Ｃｒｕｉｓｅ」という番組を地域放送向けに作り直したものだ。外国人の旅人の視点を通じて山口県の風土や食を取りあげているため、ふだんとは違った切り口が新鮮に感じられ、地域放送で展開して

よかったと感じている。

○　９月２９日（日）小さな旅「なだばたとお地蔵さん～鳥取県　網代漁港～」を見た。「なだばた」の意味について、井戸端のように「灘の周り」という説明を聞いて納得した。和やかな雰囲気の「なだばた」を中心に描かれ、海とともに生きている人々の日々の暮らしぶりがよく伝わり、懐かしい気分にもさせるいい番組だった。

（ＮＨＫ側）

言葉数の少ないベテラン漁師を相手に取材することは、大変なところもあるが、港町に暮らす人々の営みが伝わってよかったと思う。

○　１０月４日(金)ラウンドちゅうごく「山陰・山陽　魅惑のドライブイン」を見た。ドライブインは以前に流行したものという印象を持っていたが、番組を見て一概にそうとはいえないと感じた。２つの店が取り上げられ、１つは３代目の若い店主が経営に奔走している様子と、もう１つは老夫婦が穏やかに店を営む様子が取り上げられており、その対照的な姿が面白く見られた。また、ドライブインを４つの形態に分類して紹介する演出もユニークで感心した。昔のにぎやかだったころの雰囲気が伝わってくる、懐かしい気持ちになった。

○　１０月４日(金)ラウンドちゅうごく「山陰・山陽　魅惑のドライブイン」を見た。それぞれの店が時代の移ろいにあわせて､工夫を重ねていることを知ることができた。コンビニエンスストアやファミリーレストランではあまり見られない、客と店員との関係の近さが印象的だった。ゆったりしたナレーションの効果もあり、見ていて心が温まるような番組だった。

○　１０月４日(金)ラウンドちゅうごく「山陰・山陽　魅惑のドライブイン」を見た。以前はよく利用していたが、高速道路の普及に伴い最近はほとんど使う機会がなかったので、とても懐かしく見た。懐かしい雰囲気を感じさせる店舗ばかりで、中国地方各地の特色あるドライブインが数々紹介され、好感を持った。一方で、鳥取県のドライブインが取り上げられなかったことは残念に思った。

（ＮＨＫ側）

店ごとに個性があり、いまもドライバーを支える重要な拠点となっている店や、地域の暮らしに根付いた憩いの場として使われている店もあるなど、中国地方各地に点在するさまざまなドライブインがあることを伝えることができ、よかったと思う。店舗ごとの特色が重ならないように紹介したが、結果として鳥取県のドライブインについては取り上げることができなかった。

○　１０月１１日(金)のさんいんスペシャル「地方発クラフトビールブームの舞台裏」を見た。地元の特産物を生かして醸造した地域色豊かなビールがいくつも紹介され、興味深く視聴した。家電など小規模な設備を用いることで、低コストでも個性的なビールが次々と生み出されているのを知り、まさに「舞台裏」を垣間見ることができた。

○　１０月１１日(金)さんいんスペシャル「地方発クラフトビールブームの舞台裏」を見た。地域の特産物を使って作られた商品が地元で消費されていること、さらに各地へと広がり始めていることが紹介されており、このような取り組みは地域経済の活性化につながる手がかりになることから、非常に好感が持てた。

○　１０月１１日(金)さんいんスペシャル「地方発クラフトビールブームの舞台裏」を見た。地産地消の取り組みによって、醸造所だけでなく農家の方々も喜んでいる様子が印象的だった。このような地域活性化への取り組みが、山陰地方から全国に広がっていく可能性を感じた。機会があればぜひ続編を放送していただきたい。

（ＮＨＫ側）

島根県の小さな醸造所の取り組みがきっかけとなり、クラフトビールに再び注目が集まっている。クラフトビール製造にまつわる技術や知識を広く公開し、地域経済をはじめ業界全体を盛り上げていきたいという醸造所の方々の思いを取り上げることができてよかった。引き続きこの取り組みを取材し、地域の活性化を後押ししていきたい。

○　１０月１５日(火)「もぎたて！」を見た。「もぎたてツーリスト」というコーナーで、有名ではなく、岡山県に住む人でも知らないようなスポットを紹介しているが、この日は総社の歴史めぐりというテーマで、桃太郎伝説にまつわる場所や、地元で長らく続く酒蔵など、魅力的なスポットが取り上げられていた。いずれも知らないところばかりであったので興味が湧くとともに、行き方も詳しく伝えており、好感が持てた。

（ＮＨＫ側）

地域向けに旅番組を制作するときは、地元の人々も知らないような場所と、そこに関連する物語を丁寧に取材して、新たな発見が伝えられるように心掛けている。

○　１０月１６日(水) プロ野球ドラフト会議前夜ＳＰ！　生放送　“みんなのカープ”県民大会議２０１９(総合 後 10:30～11:20、後 11:50～17 日(木)前 0:55　広島県域)を見た。野球解説者の安倍昌彦さんによる各ドラフト候補の解説が非常にわかりやすく、興味深く見ることができた。ＳＮＳからのメッセージが画面に表示されていたので、大勢の人々と一緒に番組を見ているような気持ちになり、番組に参加している感じが楽しかった。ゲストに広島県出身のミュージシャンである奥田民生さんがいたことも驚いた。出演者をはじめスタッフ全員がカープのユニフォームを着用するなど、番組全体にカープ愛が感じられた。昨年の放送よりもテンポがよく、番組内容もよく練られていたと感じた。

（ＮＨＫ側）

夜遅い時間の放送であったにも関わらず、ご覧いただきありがたく思う。カープファンの広島県民の皆さんに視聴者の方々にいかに楽しく興味深く見てもらえるかを考え、演出方法について議論を重ねてきたこともあり、前回よりもブラッシュアップできたのではないか。ＳＮＳのメッセージについては、タイミングよく画面に表示することができた。

○　９月２１日(月)ＥＴＶ特集「辺野古　基地に翻弄された戦後」を見た。広範に歴史を振り返りながら米軍基地集中の現実を解きほぐしており、わかりやすく、よくまとまっていると感じた。辺野古の人々が、基地をめぐって翻弄され続けている様子が印象的だった。基地にまつわる問題を描きつつも原発を抱える地域にも通じるようなテーマでもあり、住民が分断されたうえにないがしろにされている昨今の社会状況と通じる印象を受けた。いまを考えるいい材料を提供してくれたと思う。ＮＨＫのドキュメンタリーには期待しており、制作現場にもエールを送りたい。

（ＮＨＫ側）

この番組は、地方のさまざまな声を広く伝えていくという、象徴的な番組だったと感じている。

（ＮＨＫ側）

骨太なドキュメンタリーで、視聴しづらい深夜の番組であるにも関わらず見て評価していただき、ありがたく思う。

○　１０月６日(日)のさわやか自然百景「中国山地　寂地山」を見た。地元に住んでいるが、寂地山周辺にオオサンショウウオがいることを初めて知った。オオサンショウウオの生態を詳しく紹介するなど、どうやって撮影したのかがわからないような珍しい映像もあり、興味深く見ることができた。

（ＮＨＫ側）

自然を主題にした番組であるため、動植物の生態を詳しく紹介することができた。

○　１０月６日(日)ＮＨＫスペシャル「大廃業時代～会社を看取（みと）るおくりびと～」を見た。今後約３１万社が経営危機に直面し、各社とも慣れない“撤退戦”を迅速にやらなくてはならないという問題提起が印象に残った。雲南市にあるガソリンスタンドの経営者が廃業を検討する様子も取り上げられているなど、地元の差し迫っ

た深刻な状況もうかがい知ることができた。一方で、中国地方で創業したにもかかわらず創業地から離れていった企業もあり、なぜ地域に根づかず離れていくのか、といった視点からも取材していただきたい。

（ＮＨＫ側）

中国地方、特に島根県は今後日本が直面すると思われるさまざまな課題が生じてくる地域でもある。逆にそれらの課題を解決するために全国に先駆けてさまざまな革新的な取り組みも行われていくと思うので、そうしたことも取りあげていきたいと考えている。

○　台風１９号関連の報道を見た。情報量が以前に比べて格段に充実してきていると感じた。なかでも備蓄品の目安についての情報が参考になった。家庭によって必要な量は違うと思うが、目安が分かるだけでも安心材料になると思った。一方で、「悪質商法に警戒を」という情報も出されていたが、意味がよく伝わらないところがあった。

（ＮＨＫ側）

台風１５号による被害が東日本の広範囲で発生した際、修理後に法外な金額を請求される事案が相次いだことから、注意喚起として放送した情報だ。ただし、そのような背景を知らない視聴者もいることから、より分かりやすい表現を検討する必要はあると思う。今後も防災・減災につながるような情報発信に努めていきたい。

○　１０月１３日(日)ＮＨＫスペシャル「東京ブラックホールⅡ　破壊と創造の１９６４年」を見た。「いだてん～東京オリムピック噺（ばなし）～」で東京オリンピックを盛り上げようとしているＮＨＫが、前回の東京オリンピックの際の負の側面とも感じられるような問題点を挙げたうえで、現在の日本、東京を見つめるという構成に驚いた。過去の映像資料を巧みに使ってドラマ仕立てにするという演出も面白いと思った。映像加工の技術がすばらしく、ＮＨＫだからこそできる番組だと思った。

○　１０月１３日(日)ＮＨＫスペシャル「東京ブラックホールⅡ　破壊と創造の１９６４年」を見た。２０２０年の東京オリンピックまで１年を切ったいま、当時の映像をふんだんに使い、前回の東京オリンピックにまつわる闇の部分を取りあげたことに感心した。このように、歴史を記録し、公開し、検証することはＮＨＫの使命であると思うし、このような番組を制作する人材の育成にもぜひ力を入れてもらいたい。

○　１０月１４日(月)の「お取り寄せ不可！？　列島縦断・宝メシグランプリ２０１９」(総合 後7:30～8:55、9:40～10:30)を見た。浜田市の干し柿の天ぷらについて番組を見て初めて知ったが、これがグランプリを獲得した。またひとつ、全国に自慢できる地元の特産品が生まれたようで非常に嬉しかった。

（ＮＨＫ側）

地元の料理がグランプリを獲得したことは誇らしく、地域のニュース・情報番組等でも紹介していきたいと考えている。

○　１０月１４日(月)の「お取り寄せ不可！？　列島縦断・宝メシグランプリ２０１９」を見た。地方の食文化の知られざる魅力がよく伝わってきて、お正月など楽しい気分のときに見るととてもいい番組だと思ったが、台風１９号によって各地に被害が発生しているタイミングで放送してよかったのかと疑問に感じた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年９月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１９日（木)、広島放送局において、１０人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず「２０１９年度後半期の国内放送番組の編成」について説明があったあと、「２０２０年度の番組改定」も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向、１０月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜「2019 年度後半期の国内放送番組の編成」および
「2020 年度の番組改定」について＞

○　世界情勢がダイナミックに動いている現在、ニュースや報道番組にさらに力を入れるべきだと思う。

（ＮＨＫ側）

ニュース・報道番組について、2019 年度後半期で番組の移設、改廃はないが、各種調査をもとに随時改善を行っている。今後の編成については 2020 年度の番組改定のタイミングで検討していく。

○　大河ドラマ「いだてん」の視聴率が伸びずに苦戦していると聞くが、近現代を題材にした大河ドラマは視聴者にあまり好まれないのではないか。来年の「麒麟（きりん）がくる」は戦国時代が舞台なので期待している。

（ＮＨＫ側）

「いだてん」は主人公があまり知られていない人物だったが、「麒麟（きりん）がくる」は戦国時代が舞台であり、歴史上の有名な人物が多く登場する。登場人物が過去どのように演じられたかを比較しながら楽しむこともできる。一つの時代に偏ることなく、さまざまな時代をバランスよく取りあげていきたい。

＜放送番組全般について＞

○　７月１９日（金）ラウンドちゅうごく「バックミラーの中の“原爆市長”～復興に散った命の素描～」を見た。元広島市長・濱井信三さんはこれまで数多くメディアに取り上げられてきた人物だが、当時市長の専属運転手だった矢野善曠さんの目を通して濱井さんの業績や人柄を伝えるという今回の手法に、番組制作における苦労や工夫を感じた。番組の最後で矢野さんと濱井さんの息子が再会するものの、お年寄りの嘆きのような会話で終わっており、若い人の声を聞くといったことができればよかったのにと残念に感じた。

（ＮＨＫ側）

濱井さんは戦後の広島の復興に深く携わった人物であり、今回は運転手だった矢野さんの視点から伝えようと決め、番組を制作した。

○　７月１９日(金)さんいんスペシャル「絶景！発見！感動！山陰　滝★トリップ」を見た。滝の専門用語や形態について丁寧に解説があったことに加え、それぞれの滝の見どころや駐車場からの距離についても触れられていたことで、滝に詳しくない人にも分かりやすく丁寧に作られていた。夏休み前という時宜を得た放送であり、紹介された地域にも貢献する番組になっていたと思う。

（ＮＨＫ側）

夕方のニュース情報番組「いろ★ドリ」の昨年度の企画で、複数回に渡って紹介した映像を使って制作した。滝巡りの愛好家にも出演していただき内容を充実させたことで、滝をより魅力的に伝えることができた。

○　７月２６日(金)ラウンドちゅうごく「私が見た８．６　～高校生と描く原爆の絵～」を見た。被爆者の証言をもとに、高校生たちが試行錯誤しながら原爆の絵を描く姿を追った、見応えのあるよい番組だった。しかし、美術を志す高校生たちが、被爆者の語る当時の惨状に向き合って絵に描いていくことは非常につらく厳しい作業に思われ、生徒にこのような大きな負担をかけていいのかと、視聴後は後味の悪さを感じた。絵を描いた生徒の心のケアがきちんと行われているのかも気になった。

○　ラウンドちゅうごく「私が見た８・６　～高校生と描く原爆の絵～」を見た。被爆体験を絵という形にすることで、継承のための貴重な記録になるとともに、被爆者の心の傷を癒やす効果もあるのではないかと感じた。また、高校生が絵を描きつつ被爆体験に向き合うことで､教育効果が得られるという点も番組で紹介されており感心した。描かれていた絵から被爆の惨状の凄まじさが伝わってきたこと、高齢化する被爆者の声をきちんと拾い上げて番組を制作していたことで､秀逸な番組になっていたと思う。

○　ラウンドちゅうごく「私が見た８．６　～高校生と描く原爆の絵～」を見た。凄惨な体験を伝える相手が高校生であるからこそ、被爆者も全身全霊で、相当な覚悟をもって生徒たちに向き合っているのではないか、被爆者自身がこの取り組みを通じて人生を振り返る機会にもなっているのではないかと、両者のさまざまな思いを感じた。複数の視点から見ることができる、よい番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、高校生が被爆体験に真剣に取り組む姿や、被爆者が時間をかけて高校生と向き合ってつらい記憶をなんとか絵にしてもらおう

とする姿を伝えようと考え、制作した。この高校が続けてきた取り組みは大事だと考えており、今後も取材を続けたい。広島局では８月２日(金)に「アニメ　大好きだったあなたへ　～ヒバクシャからの手紙～」(総合 後7:57～8:42 中国ﾌﾞﾛｯｸ)を放送した。この番組では、被爆者の手紙をもとにアニメーションを制作したが、凄まじい被爆体験に向き合うのにプロのクリエーターでさえも苦悩していた。そうした難題に高校生たちは、長年活動を続けてきた美術の先生の指導のもとで、取り組んでいる。

○　８月２日(金)ラウンドちゅうごく「二つの戦争を生き延びて～ある“原爆孤児”の戦後～」を見た。“原爆孤児”であった友田典弘さんの過去の経験をドラマ仕立てで再現していたが、これまでの「ラウンドちゅうごく」にはない凝った演出に驚き、力を入れてこの番組を制作したことが伺えた。

（ＮＨＫ側）

限られた予算の中で、ドラマで使用するような本格的な美術セットを準備するのは難しかったが、担当ディレクターが知恵と工夫を凝らして、今回の再現シーンを作り出すことができた。

○　８月３０日(金)Ｙスペ！「秋吉台　いきものの世界」を見た。秋吉台に年に300日も通っているという方が、秋吉台の誇る自然や生き物の素晴らしさと楽しみ方を分かりやすく解説されていたのが好感を持てた。秋吉台にはボランティアガイドがいることを伝えるなど、秋吉台をさらに身近に感じる情報を入れるとよりよいと感じた。

○　Ｙスペ！「秋吉台　いきものの世界」を見た。動物をとらえた映像が素晴らしく、非常に見応えがあった。しかし動植物が主体の映像が続いていたので、少し見飽きてしまった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、７月７日(日)に放送した「さわやか自然百景」を地域放

送向けに編集したもので、秋吉台の自然を主題にした番組であるため、動植物を詳しく紹介することができたが、少し単調であったかもしれない。秋吉台の魅力をさらに紹介していけるよう、工夫を考えたい。

○　９月６日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「うまい！安心！陸で魚を育てる養殖革命」を見た。番組で紹介された新しい養殖技術を用いると、魚の病気や赤潮の発生を防ぐだけでなく、山間部でさえも養殖が可能となるなど、養殖技術が大きく進歩していることに驚いた。長所短所も含めて中国地方の各地のさまざまな事例が紹介されており、地域全体を横串を通すような番組作りは素晴らしかった。先進技術を用いた取り組みが中国地方で行われていることを知り、非常に誇らしく感じた。

（ＮＨＫ側）

中国地方に横串を通したような番組という感想をいただき、大変うれしく思う。広島放送局の役割の一つは、山陰山陽５県、700 万を超える視聴者の方々に支持され、関心を持って見ていただけるような番組を作ることだと考えている。今回は中国地方の各地に先進的な研究者がいることが分かり、取材を行った。陸上養殖は、中国地方だけでなく日本各地で実用化できる将来性のある事業であり、全国放送への展開の可能性も探りながら、引き続き取り組んでいきたい。

○　９月６日(金)ザ・ディレクソン「ｉｎ鳥取　“取鳥”じゃないで！」(総合 後7:30～8:13 鳥取県域)を見た。若者たちが鳥取について一生懸命に話し合う様子に非常に刺激を受けた。若者視点の斬新な発想から鳥取の魅力を再発見しようとする“鳥取愛”にあふれた番組で、思わず見入ってしまった。ナレーションを担当したアナウンサーの声が少し甲高くなることがあり、気になった。

（ＮＨＫ側）

今回の「ザ・ディレクソン」では、番組参加者の議論で選ばれたアイデアをもとに鳥取の魅力を伝える企画を番組内で放送した。なお選ばれなかった企画についても、鳥取局の番組で今後取り上げていくこと

にしている。

（ＮＨＫ側）

アナウンサーは様々な経験を積んで成長していくものだと考えている。引き続き適切な指導と研さんを続けていくので、見守ってほしい。

○　９月６日(金)Ｙスペ！「お便りさんぽスペシャル　体感！地域の自慢スポット」を見た。山口県民でもあまり知らないような、県内各地の誇るべき産業やユニークな人々、伝統野菜などが次々と紹介され、うれしく感じた。リポーターの一生懸命で快活な人柄もよく、地域の子どもたちと川に飛び込むシーンは新鮮で、元気をもらえた。

（ＮＨＫ側）

「お便りさんぽ」は、夕方のニュース情報番組「情報維新！やまぐち」のコーナーの一つで、視聴者から寄せられた取材依頼、情報提供をもとに、リポーターが県内各地を訪ねて取材している。今回はこれまで放送したものの中から４本を取り上げ、スペシャルとして放送した。リポーターの個性を生かしつつ、視聴者に喜んでもらえるような番組制作を続けていきたい。

○　９月１３日(金)さんいんスペシャル「つくり続ける暮らし　～みその里　私都～」を見た。八頭町私都の住民が地域の食文化や伝統行事を守り続ける姿に、本当に大切なものが何かを教えてもらったような気持ちになった。ナレーションも担当した小松由佳さんのギター演奏が、穏やかな田園風景とよく合っていた。鳥取弁の会話をそのまま画面にスーパーしていたのが、とても親しみを感じられてよかった。県内の各地域にいまも残る暮らしの知恵、行事や風習を語り継ぐためにも、こういった番組を今後も制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

地域に根付いた伝統文化を守り伝えていくことは、地域放送局にと

って大切なことだ。今後もそういった番組作りに努めていく。

○　９月１３日(金) Ｙスペ！「潮風と浪漫あふれる旅へ　門司港～萩・前編」を見た。冒頭から映像が本当に美しく、空撮映像にも引き込まれた。外国人の視点から捉えた山口県が非常に新鮮に映った。観光と食事だけに偏ることなく、地元の人々との交流も描かれており、好感が持てた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、「Ｔｒａｉｎ　Ｃｒｕｉｓｅ」という、国際放送のＮＨＫワールドＪＡＰＡＮで放送している番組を地域放送向けに作り直したものだ。視聴者からも好評の声を多く頂いた。

○　９月１７日（火）と１８日（水）の「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」で、消費増税に関するニュースを見た。日常生活に影響が懸念される身近な問題を丁寧に取材していて、分かりやすい内容になっていた。また１２日（木）の放送では、出雲市の外国人労働者に関するニュースを見た。外国人労働者が地域にとって欠かすことのできない存在になっているにも関わらず、景気によって雇用が大きく左右されることを知り、理解を深めることができた。これらの２つのニュースを鳥取県と島根県の両方で取材していたのもよかった。今後もこれらの問題について、取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

「しまねっとＮＥＷＳ　６１０」では、身近な話題を記者解説で分かりやすく伝えることを心がけている。消費増税や外国人労働者について、それぞれ注目を集めているニュースであるため、今後も取材を継続していきたい。

（ＮＨＫ側）

外国人労働者の問題は中国地方全体の問題でもあり、関連する番組を中国ブロックで放送できないか、検討していきたい。

○　８月６日(火)ＮＨＫスペシャル「“ヒロシマの声”がきこえますか　～生まれ変わった原爆資料館～」を見た。資料館に掲げられた写真の親子を見つけ出したＮＨＫの取材力に脱帽した。８月６日という日に資料館のリニューアルが紹介されたことに意味があり、ＮＨＫが広島と長崎に起こった悲劇を忘れないでいてくれるという気がした。実際に番組を見て関心を持ち、広島を訪れる人もいるので、今回の番組は非常に意義があったと思う。

（ＮＨＫ側）

以前から原爆資料館のリニューアルをテーマにした番組を全国放送で紹介したいと考えていたが、このタイミングで実現することができた。

○　８月１１日(日)ＮＨＫスペシャル「激闘ガダルカナル　悲劇の指揮官」を見た。一木大佐率いる陸軍精鋭部隊が、ガダルカナル島で１万を超える米軍と戦い全滅に至るプロセスが淡々と描いており、見応えのある番組だった。番組の中で、一木大佐のご息女を捜し出して証言を得ていた。大変な作業だと思うが、今後も貴重な歴史の証人を映像に記録し、証言を残していってもらいたい。

（ＮＨＫ側）

太平洋戦争について、証言者を探し出すことは年々困難になってきているが、使命感を持って証言の収集に努めていきたい。

○　８月２５日(日)さわやか自然百景「岡山　奥津渓」を見た。朝の時間に、非常にさわやかで美しい映像が流れ、心が洗われるような気持ちになった。９月１３日(金)＠ｏｋａｙａｍａ「岡山・奥津渓　まるごと見せます　夏の自然」も見た。「さわやか自然百景」よりも内容が深められており、生き物それぞれの生態が愛情のこもったまなざしで描かれていた。キャラクターを登場させて親しみやすさを感じさせる工夫もあり、幅広い世代で楽しめる内容になっていた。奥津渓の自然が満喫できる非常に美しい番組だった。

（ＮＨＫ側）

「さわやか自然百景」は、すがすがしい朝の雰囲気を満喫できるような演出を目指した。一方、＠ｏｋａｙａｍａでは演出方法を変えて、家族で楽しめることを意識して制作し、その効果があったと手応えを感じている。

○　９月１５日(土)「マラソングランドチャンピオンシップ　～東京五輪代表選考レース　女子～」(総合 前10:00～11:53) を見た。女子のレースを中継するＮＨＫと男子のレースを中継するＴＢＳがコラボをするという画期的な試みで、チャンネルを切り替えながら視聴する人が多かったのではないか。女子のレースは途中から単調な展開になったが、アナウンサーが上手に実況を続けていたので、事前準備をしっかりしているのだろうと感心した。選手紹介も適切で、レースの様子を中心に伝えたのがよかった。ただ、終盤に一気に追い上げた選手がいたが、その過程については伝えられず、ゴール間際に急にその情報を示されたため戸惑った。また、この中継を録画して副音声をあとで聞いてみようと思っていたが、副音声がうまく収録できていなかったのが残念だった。

（ＮＨＫ側）

録画機にもよるが、機種によってはあらかじめ副音声を収録する設定にしておく必要がある。

○　８月３日(土)ＥＴＶ特集「あの夏を描く　高校生たちのヒロシマ」を見た。１０か月の長期間にわたり、想像を絶する被爆体験を高校生たちが描こうと苦悩する姿を追った番組で、高校生からの視点で描かれていたので、青春ドラマを見ているような気持ちにもなった。絵が完成したときの被爆者の涙と高校生の笑顔が特に印象的だった。ただ、番組の最後に流れた曲に暗い印象を受けた。未来に希望を感じさせるような、もう少し明るい選曲が良かったと思う。

（ＮＨＫ側）

担当ディレクターが長期間にわたって高校に通い取材したことで、高校生たちが心を開いて自身の迷いや苦しみを素直に打ち明けてくれ

たので、見る人の心に響くような番組ができたと思う。

○　８月１０日(土)ＥＴＶ特集「忘れられた“ひろしま”～８万８千人が演じた“あの日”～」を見た。東西冷戦といった時代背景もあり、映画「ひろしま」がその舞台である広島でも忘れられていった過程が分かりやすく説明されていた。オリバー・ストーン監督など著名人からの映画評により、厚みのある番組になっていた。また、この映画がアメリカの大手メディアの協力でデジタル化され、英語字幕が付き、今や世界中で見られていることを初めて知り驚いた。８月１７日(土)に映画「ひろしま」(Eﾃﾚ 前0:00～1:47)が全国放送されたのは、非常に大きな意義があったと思う。

（ＮＨＫ側）

映画「ひろしま」が、時代背景やさまざまな思惑もあって、次第に忘れられていった過程を丹念に追うことができた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年７月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１８日（木)、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、８月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）

（主な発言）

＜放送番組全般について＞

○　７月５日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「西日本豪雨１年～次の災害から命を守るために～」（総合　後7:30～8:42 中国ﾌﾞﾛｯｸ）を見た。西日本豪雨から１年という、時宜を得たタイミングでの放送だった。番組冒頭で、広島市中心部を大雨が襲った際の浸水シミュレーションがＣＧ映像で紹介されたが、すごい迫力で真に迫っていたのと、その映像技術の高さにも驚いた。西日本豪雨以降、大雨に対して少し神経質になっていると感じることや、警報が出たときに必ずしも大きな被害を伴わないこともあり、私たちは油断してしまうのではないかと感じている。被災した人たちのインタビューを聞き、自らの身にも関わる切実な問題としてとらえ、災害に

対して備えておくことがとても大切だと感じた。このような番組を通して、今後も防災意識の啓発を続けていってほしい。

（ＮＨＫ側）

自宅周辺に山や河川がなければ、災害はひと事だと感じてしまう傾向がある。どんな場所でも真備町のような災害に見舞われる可能性があることを伝えるため、冒頭で広島市中心部の浸水をイメージしたＣＧ映像を使用した。この番組は多くの視聴者にご覧いただき、強く関心を持って見ていただけたと思う。

○　ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「西日本豪雨１年～次の災害から命を守るために～」を見た。こういった意義のある番組を見た人は、防災意識を高められるだろうが、番組を見ていない人には内容が伝わらないため、災害時に悲劇が繰り返されてしまうのではないか。例えば視聴率のいい番組の後に防災関連の広報番組を放送するなどして、より多くの人に防災意識を高めてもらうといいのではと思う。また、避難所で知らない人たちと日々過ごすことに抵抗がある人も多いと聞く。海外では災害時の避難所で、有名シェフが料理をふるまう取り組みがある国もあるそうだ。少し工夫すれば日本でも取り入れられそうなユニークな事例を紹介し、避難所は耐え忍ぶ場所ではない、早めに避難所に行こうと促す仕組みづくりを提案するとさらによいと思う。

（ＮＨＫ側）

日本の避難所には指摘いただいたようなイメージがあるように思う。過去の地震災害で、東日本大震災で、避難所のトイレの使用を敬遠して水分摂取を控えた結果、エコノミークラス症候群になって亡くなられた事例もあると聞く。番組内でも専門家に海外での取り組みを紹介していただいたが、頂いた意見を参考に、災害にまつわる課題を幅広く取り上げていきたい。

○　７月６日(土)ニュース「西日本豪雨追悼式」関連(総合　後 0:10～0:45 岡山県域)を

見た。現在の真備町の様子や被災者のインタビューが伝えられ、いまだ心の傷が癒えず、以前のような平穏な暮らしを取り戻せていない様子がひしひしと伝わってきた。追悼式で、被災された方々が悲痛な思いを切実に訴えていた際、それぞれの人たちの背景についてアナウンサーの丁寧な解説があった。これが大変分かりやすく、ニュース全体の質を上げていた。

（ＮＨＫ側）

ニュースの構成について検討を行った結果、この日の真備町の様子をできるだけストレートに伝えることにした。追悼式についても、必要なことにポイントを絞れば、より実感を持って伝わると考えた。今回のような感想を頂けたのは非常にありがたく、制作スタッフにもその旨を伝える。

○　７月１２日(金)“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「県境のまち　大竹市の愛すべき人たち」を見た。「かたすみ食堂」は、場所を中心に紹介することが多かったが、今回は人に焦点を当てていた。登場人物の相関図を見せるなど分かりやすい演出で、共感しながら楽しく見た。番組最後に紹介される鉄板料理を毎回楽しみにしており、今回もおいしそうだったので、ぜひ自分でも作ってみたい。

（ＮＨＫ側）

今回の「かたすみ食堂」は入局２年目と５年目の女性ディレクターが担当した。彼女たちが考えた新たな演出手法を試みたが、興味を持って見てもらえてとてもありがたい。

○　“テッパン”話仕入れました！広島かたすみ食堂「県境のまち　大竹市の愛すべき人たち」を見た。今回も地域番組だからこそ取り上げることができるような、大竹市のふだんの様子を面白く演出しており、興味深く見ることができた。ただ、この番組が事前取材なしのいわば“ぶっつけ本番”の旅なのか、あらかじめ取材を行っていたものなのかが気になった。また、スタジオ部分の映像の影がきついと感じることがよくある。スタジオ内が暑いためなのか出演者が汗をかいていることもあり、見ていて

気になる。

（ＮＨＫ側）

今回この番組に出演いただいた方々には、事前にリサーチを行ったうえでロケを実施した。

（ＮＨＫ側）

今回の「かたすみ食堂」や「ラウンドちゅうごく」などを収録している広島局のスタジオでは、ＬＥＤ照明ではなく発熱量の大きい旧来のハロゲンランプを使用しており、室温が上がってしまうことがある。

○　７月１２日(金) ＠ｏｋａｙａｍａ「かたりつぐ　～西日本豪雨から１年　いま抱く思い～」を見た。西日本豪雨を経験し、今春消防士として新たな一歩を踏み出した１９歳の女性が特に印象的だった。また、豪雨の被害を受けた校庭の桜が今春に芽吹き花をつけた様子や、被災した地域に住む人たちが街づくりや集落の祭りについて思いを語る言葉など、番組で取り上げる内容がとてもよかった。

（ＮＨＫ側）

桜のシーンには、ナレーションをつけずに映像とスーパーのみで伝えることで、桜をめぐるさまざまな人たちの思いを深く描き出せたと思う。また、西日本豪雨で大きな被害を受けた真備町の箭田地区の人々は、洪水被害に備えた防災活動を続けていたが、地域の祭りの準備を進めている最中に被災した。引き続き、被災者の方々を元気にしたいという気持ちで番組作りをしていく。

○　７月１２日(金)さんいんスペシャル「地域留学　なぜ島根へ？　～地方だからできる“先進の教育”とは～」を見た。「アクティブ・ラーニング」の実践や地域に開かれた学校を目指す取り組みなど、島根県が先進的な教育に力を入れていることがよく分かった。生徒が自ら考えて課題解決していくところに、知識偏重ではない“島根

型”教育の成功の鍵があると感じた。

○　さんいんスペシャル「地域留学　なぜ島根へ？」を見た。教育評論家の尾木直樹さんと斎康敬アナウンサーが教室を模したスタジオセットで話をする感じがよかった。愛知県から来た女子高生が地域の課題に向き合い、地域住民との交わりの中で自己肯定感を培っていく姿を見て、こういったところに今後の教育のヒントがあるのではと感じた。「以前は地方から都会に出なければ可能性が広がらないと言われたが、ここでは全く逆」という尾木さんのコメントが、地方にやる気と自信を与えてくれた。

（ＮＨＫ側）

教育改革が進められる中、尾木さんに島根県の取り組みの意義について解説していただき、より分かりやすく見ていただけたのではないかと思う。生徒たちが意欲を持って島根の高校に“留学”し、さまざまな経験をしながら前に進んでいこうとしている姿が、ありのまま描けていたと考えている。今回と同様の取り組みが県内でも少しずつ広がってきているので、今後も取材を続けていきたい。

○　さんいんスペシャル「地域留学　なぜ島根へ？」を見た。さまざまな立場の人にしっかりと取材を行い、今後の方向性も示されていたが、取材先の学校の先生がどう受け止めているかについては言及されていなかった。高校生たちの力を借りて地域の価値を改めて見出していくことは大変よい流れだと思う。他の地域でも参考になる内容だ。

（ＮＨＫ側）

指摘のように先生側の声も必要だと思う。今後、同様のテーマを取り上げる際にはこの点も考慮したい。この番組はＳＮＳ上でも反響が大きく、山陰地方以外にも広がったようだ。他地域の人たちからも要望があったので、全国放送の実現を検討していきたい。

○　７月１２日（金）Ｙスペ！「魅力を体感！山口の山に行こう」を見た。山口県に登山愛好家たちがたくさんいること、初心者からベテランまで楽しめるさまざまな山があることに驚いた。番組で登山中に写真映えするスポットをいくつか紹介していた。素敵な写真を撮ることを目的に登山をする人も少なくなく、そういった面も意識した番組作りをしていると感じた。貨物船衝突事故から復興を遂げつつある周防大島の山も取り上げているのがよかった。

（ＮＨＫ側）

これは、夕方のニュース番組「情報維新！やまぐち」で放送した素材から改めて制作した番組で、標高 500 メートル前後の山を紹介したが、実際に登ってみるとかなり大変だと分かる。山口県には魅力的な山がたくさんあり、登山を楽しむ人が多いようだ。

○　Ｙスペ！「魅力を体感！山口の山に行こう」を見た。山登りの初心者でも気楽に見られる番組だったが、登山経験者には少し物足りなかったかもしれない。山口県には 500 メートル級の山が多いとあったが、1,000 メートル級の山もいくつもあり、紹介のしかたに少し違和感があった。また、防府市の右田ヶ岳にはいくつも登山コースがあるので、ぜひそれらも紹介してほしかった。

（ＮＨＫ側）

山の標高に関するコメントについては、指摘は今後の参考にしたい。また右田ヶ岳には複数の登山ルートがあるので、例えばそれぞれの難易度を紹介するといった手法も考えられるのではないか。

○　６月２４日(月)ノーナレ「画面の向こうから―」（総合 後 10:50～11:20）を見た。日本でこんなにも劣悪な環境で働いている外国人技能実習生がいるのかと、とても衝撃を受けた。同時に、このような演出方法の番組があったのかと驚きながら視聴した。

（ＮＨＫ側）

「ノーナレ」は新しい演出の番組で、ＳＮＳ上でも盛り上がりを見せるなど、若い人たちからもよく見られているようで、ふだんあまりＮＨＫを見ない視聴者層からの評判もよいと聞いている。

○　６月２７日(木) ふるカフェ系　ハルさんの休日「鳥取・智頭町～限界集落の、ザ古民家カフェ」を見た。俳優の渡部豪太さんの演技がすばらしく、「限界集落」と称される地域にある古民家カフェを舞台に、楽しく充実した３０分間の物語になっていたことに感心した。“根曲がり出し桁”と呼ばれる、地元の人にもあまり知られていない建築技術が、豪雪地帯の築 100 年にもなる建物を支えてきたのだと印象に残った。地元の人たちの演技がとても上手で、地域のすばらしさが画面を通じて感じられ、ほほえましい気持ちで見た。

（ＮＨＫ側）

「ふるカフェ系　ハルさんの休日」は東京から離れた地域でロケを行うときもあり、今回は鳥取が舞台の２本を制作し、他に鳥取市用瀬町のカフェを取り上げた回も放送する予定だ。

○　６月２８日(金)～３０日(日)「第 103 回日本陸上選手権」(総合　28 日(金)後 7:48～8:42、29 日(土)後 4:45～6:00、30 日(日)後 4:15～6:00)を見た。以前の番組審議会でも指摘したが、長距離種目のレース途中に別種目の中継をはさんでしまったことがあり、残念だった。今回は米朝首脳会談を伝えるニュースでも長距離種目の中継が中断された。大事なニュースだとは思うが、競技を楽しみにしている視聴者もいるので、例えばサブチャンネルに切り替えるなど、何か工夫ができないかと思った。走り幅跳びでは踏み切り速度や角度を示すといった、競技ごとに各選手の詳しいデータを紹介していたので、より楽しく見ることができた。今回の大会では、東京パラリンピックの種目になっている競技も行われており、世間のパラリンピックへの関心を盛り上げるためにもぜひ放送してほしかった。

（ＮＨＫ側）

長距離種目などの競技に関心がある方もいらっしゃるとは思うが、

ニュースの重要性等も考慮し、急きょ米朝首脳会談に関するニュースを、陸上中継を中断して伝えた。サブチャンネルで放送するなどの対応については、今後の課題としたい。来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さまざまなアイデアを出しながら、より楽しんでいただく工夫を考えているので、今後も期待してほしい。

○　６月２９日（土）ＮＨＫスペシャル　東京ミラクル　第２回「巨大鉄道網　秒刻みの闘い」を見た。ＪＲ東日本の東京総合指令室に、遅延や事故といった情報が次々と入ってくる様子が紹介され、大変興味深かった。番組を見終わった直後は「東京はすごいな」と感じたが、冷静に考えると、鉄道運行を秒単位で管理するといった極限までの努力を続ける必要があるのか、これは東京の限界ではないのかという感想を持った。そういう視点からの番組も期待したい。

（ＮＨＫ側）

この番組に対しては好意的な意見も頂いた一方、鉄道の最も大事な役割は乗客を安全に目的地に連れていくということではないか、といった意見も頂いている。時間の正確さを掲げて日本の鉄道システムを海外に輸出している事例もあるが、ご指摘のあったような視点からの番組も今後検討したい。

○　６月３０日(日)ＮＨＫスペシャル「誰があなたの命を守るのか“温暖化型豪雨”の衝撃」を見た。詳細なデータ分析や実験映像なども駆使した秀逸な番組だった。災害の危険度を５キロ四方ごとに判定して避難情報を出す広島市の最新システムが紹介されていたが、規模の小さい自治体ではそのような対策ができるのかが気になった。広島市を含め、広域災害をテーマにした番組を中国地方で制作してはどうか。また、西日本豪雨をきっかけに、国は行政による災害支援の限界を認めて、住民一人一人が災害から命を守るべきだとしている。この動きにどう対応していくのか、といった視点からも番組制作ができるのではないか。

（ＮＨＫ側）

西日本豪雨を教訓に、各自治体が地域防災に今後どう取り組んでいくのか、また各県レベルではどのような取り組みが考えられているのか、といった幅広い視点もとりいれて取材を続けていきたい。

○　ＮＨＫスペシャル「誰があなたの命を守るのか“温暖化型豪雨”の衝撃」を見た。真備町では支流河川の逆流により大規模な被害が出たことを科学的なデータを用いて迫っていたのが印象に残った。真備町で亡くなった人たちの多くは自宅の１階にいたそうだが、浸水実験により被災者が当時どのような状況におかれていたのか、分かりやすく伝えていた。この番組は、これから災害が起きるかもしれない、いわば“未災地”に対する注意喚起だったと思う。

○　ＮＨＫスペシャル「誰があなたの命を守るのか“温暖化型豪雨”の衝撃」を見た。なぜ避難勧告が出ても実際に避難しない人が多いのかという疑問に対し、「避難スイッチ」という言葉を使って、分かりやすく説明していた。番組を見たことで、自らも同様の災害に巻き込まれる可能性があると、実感を持って理解することができた。

（ＮＨＫ側）

真備町で亡くなった人たちの約８割以上が自宅の１階で亡くなったというデータもあり、屋内への浸水実験の映像を伝えることで、より実感を持って見てもらえたと思う。

○　６月３０日(日)日曜美術館「洋画に日本人の魂を～画家・岡田三郎助～」を見た。岡田三郎助は女性への美術教育に力を入れていたことでも知られているが、番組では、彼がモダンガールと呼ばれた女性たちに大きな影響を与えたこと、彼女たちを描きながら女性活躍のあと押しも行っていたことを、非常に分かりやすく伝えていた。

（ＮＨＫ側）

岡山県出身の画家・竹久夢二と同様、新しい女性像を描いた画家であり、興味を持って見ていただけてありがたい。今後は郷土出身の美術家も紹介していければと思う。

○　７月２日（火）プロフェッショナル　仕事の流儀「世界一の掃除、さらなる高みへ～清掃員・新津春子～」を見た。中国で生まれた新津さんが、さまざまな困難に立ち向かい努力を重ねて清掃の仕事に自らの居場所を見出したことや、彼女の高い職業倫理感に裏付けられた徹底した仕事ぶりは、本当にすばらしかった。社会的弱者への配慮を欠かさない彼女の仕事ぶりは、ぜひ子どもたちにも見てほしいと思った。

（ＮＨＫ側）

以前、新津さんを取り上げた際に反響が大きく、世界各国から取材陣が訪ねてきたほか、新津さんが教科書にも掲載されたと聞く。最初の放送から４年がたち、再度取材して番組化した。今回の番組も大変好評で、再放送を希望する意見が多数届いている。

○　７月１２日(金)究極ガイドＴＶ「２時間でまわる厳島」（ＢＳﾌﾟﾚﾐｱﾑ　後 2:30～4:30)を見た。映像がすばらしく、厳島には何度も訪れているが、新しい発見があった。一方で、厳島の今の姿を保存する記録用の映像としてはよいが、この番組は誰のために作っているのだろう、観光客向けの番組なのか、という疑問が生じた。旅の魅力は行く先々での人との出会いだと思うが、今回は地元の人との触れ合いが不足しており、物足りなかった。

（ＮＨＫ側）

「究極ガイドＴＶ」シリーズは、これまでフランスのモン・サン・ミシェルやローマのコロッセオなどを取り上げてきた。番組のねらいは、４Ｋ・８Ｋでその場所の現在の姿を撮影すること、訪れたことがない人がテレビの前にいながらその観光地に行ったような気持ちになれるように作られている。また、徒歩での観光にちょうどよいとされる２時間で楽しめる、観光ガイドブックのような構成となっている。

○　６月２９日(土) ＥＴＶ特集「みかんの花が咲く谷で　豪雨から１年・農家たちの自叙伝」、７月１３日(土)ＥＴＶ特集「２つの家の物語　～豪雨１年　広島・小屋浦～」を見た。ともに西日本豪雨をテーマにしたドキュメンタリーだが、番組の作り方が異

なっていて興味深く見ることができた。特に後者は家族や家をテーマにした内容で、誰もが共感できる内容だったと感じた。

○　ＥＴＶ特集「２つの家の物語　～豪雨１年　広島・小屋浦～」を見た。西日本豪雨で自宅を失った２つの家族を追ったドキュメンタリーで、豪雨災害の恐ろしさと、被災をきっかけに家族の絆が試されるという重層的なテーマとなっており、感情を揺さぶられる非常によい番組だった。

（ＮＨＫ側）

「２つの家の物語」は、広島局のディレクターがカメラマンとペアを組み、一年間ずっと小屋浦に通い取材を続け、２つの家族との信頼関係を構築して制作したもの。頂いた意見は担当者に伝える。

（ＮＨＫ側）

豪雨災害によって受ける被害は、都市と過疎の地域それぞれで異なり、背景にはその地域が抱える問題がある。今回の番組のように、豪雨災害をきっかけに見えてくる問題を考えていくのも、大事な視点だと考えている。

○　７月１５日(月)　＃ジューダイ「生放送イマドキカップルの恋愛事情　新常識からお悩みまで大調査」を見た。高校生自身にとっても親世代にとっても、関心は高いが聞きづらいことを生放送で切り込んだうえ､すぐ後に放送された｢ハートネットＴＶ」とも連動して効果的に伝えていた。高校生の視点からの意見をきちんと聞くことができるよい番組だった。多様性を認める社会にするため、こういった話題を紹介してくれるのは参考になる。今後もどんどん挑戦していってほしい。

（ＮＨＫ側）

「＃ジューダイ」は、ふだんから高校生と一緒に、高校生の目線から番組を制作している。こういった日常の積み重ねがあってこそ、聞きづらいテーマでも姿勢を変えずにできるのではないかと思う。「ハートネ

ットＴＶ」との連動は、Ｅテレがチャレンジしている取り組みのひとつである。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年６月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木)、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、７月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）

（主な発言）

＜放送番組全般について＞

○　　５月１８日(土)「生中継！松江・ホーランエンヤ　～１０年に１度の大水上絵巻～」(総合 前10:00～11:00 中国ﾌﾞﾛｯｸ)を見た。１０年に１度の貴重な船神事ということもあり、事前にロケや取材を丁寧に行うことで、関わる人々をはじめ、伝統や背景に至るまで番組内でしっかり説明されていた。ただ、ホーランエンヤに関する番組が事前に数多く放送されていたのを見ていたこともあり、今回の番組では生中継らしい、ライブ感があふれる映像であればもっとよかったと感じた。

○　　「生中継！松江・ホーランエンヤ～１０年に１度の大水上絵巻～」を見た。１０年に１度の祭りだと聞いていたので、生中継をとても期待して見ていたのだが、画面か

らは祭りの熱気があまり伝わって来ず、祭りの紹介が淡々と行われたという印象を受けたのが残念だった。例えばドローンを使用して上空から祭りの全貌を撮影するなど、より臨場感を伝えることのできる演出を行ってもよかったのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

ホーランエンヤの生中継に関しては、どのように伝えていくか議論を重ねた。祭りの様子を生中継で伝えていくと同時に、船に乗る人たちの絆や思いをＶＴＲできちんと紹介していくという方法をとったので、ライブ感では少しもの足りなさを感じられたのかもしれない。また、ドローンによる撮影も検討したが、人が多く集まる場所での使用となるため、万が一のことを考え控えることにした。次回は１０年後だが、頂いた意見を生かすことができるよう、申し送っていきたい。

○　５月２４日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「怠け者と呼ばないで　～知ってほしい　起立性調節障害～」を見た。不登校生徒のうち約３割は起立性調節障害の可能性がある、という話を聞いて、不登校に関するイメージが大きく変わった。自分の子どもの周りにも不登校の生徒たちがいるため、この問題に改めて関心を持つことができた。番組では岡山県の対策が紹介されていたが、これは他の地域でも取り組むべき課題だと思うので、ぜひ全国放送を期待したい。

（ＮＨＫ側）

発達障害やパニック障害などのため、生きづらさを感じている人も少なくないと聞いており、これらの症状に対する関心が高く、取り上げた番組への反響も大きい。起立性調節障害についても、その存在を知らずに不登校に苦しんでいる親子もいるのではないか。これらの問題をより多くの人に知ってもらうためにも、中国地方での放送にとどまらず、より広い地域に発信していければと考えている。

○　５月３１日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校　大変身のウラガワ」を見た。番組ではこの取り組みにより、都会の生

徒を受け入れる町が変わっていく様子が紹介されていた。丁寧に取材をしていたようだが、２５分の放送時間では少し短く、それぞれの学校の取り組みの長所を少しずつ紹介した後、スタジオの出演者のコメントでまとめるのにとどまっていたのが残念だった。7月放送の「さんいんスペシャル」でも同じテーマを取り上げると聞いており、次回は“留学”が都会から来た生徒にそれぞれどのような変化をもたらしたのかなど、さらに踏み込んで伝えてほしい。またこのような動きを全国にも発信して、より多くの人に知ってもらいたい。

（ＮＨＫ側）

番組で紹介したような取り組みを積極的に行っている地域はほかにあまり見られないのではないかと思う。生徒それぞれの変化も含めて、引き続きこの動きをより深く掘り下げた取材を行うよう、担当者に伝える。

（ＮＨＫ側）

担当したディレクターからは、伝えたい内容が多かったため放送時間内に情報を収めることが難しかったと聞いている。７月放送予定の「さんいんスペシャル」では頂いた意見を参考に、より丁寧に伝えられるよう努めたい。

○　ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校大変身のウラガワ」を見た。この取り組みを軌道に乗せることができたことに関する苦労話がほとんどなく、それぞれの事例のよい部分だけが紹介されていたため、まるで各学校の宣伝番組のように感じた。一方で、私立ではなく公立の高校がこのような取り組みを行っていることを知り、誰がどのように働きかけて実現したのか、その事情が知りたいと非常に興味が湧いたが、その部分には触れられなかったのも残念だった。「ラウンドちゅうごく」という番組を見ていると、オープニングやスタジオ部分の有無、生中継や収録など、毎回異なる演出方法で制作されているように見受けられる。このように放送回ごとにばらつきがあると、番組が広く認知されるのは難しいのではないか。

（ＮＨＫ側）

地域への“留学”が進む背景については、やはりプラス面、マイナス面の両面があると思う。「ラウンドちゅうごく」は昨年春にスタートした番組で、試行錯誤しながら制作してきた。頂いた意見をもとに、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校大変身のウラガワ」、「怠け者と呼ばないで　～知ってほしい　起立性調節障害～」それぞれを見た。放送時間が短かったという話も出ていたが、伝えたい内容を放送時間にあわせて入れ込むのが制作者の技量だと思うので、今後に期待したい。「ラウンドちゅうごく」は、先に挙げた公立高校の“留学”や、起立性調節障害を取り上げるなど、意欲的に問題提起を行っている。身近な問題を取り上げ、中国地方、そして全国的な課題にしていくといった気概を持って、今後も制作を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

「ラウンドちゅうごく」は、域内各局と連携を深めることで、中国地方全体の問題を掘り下げていく方針で制作している。番組が始まって１年がたったが、頂いた意見を参考にさらなるブラッシュアップを図っていきたい。

○　６月５日(水)お好みワイドひろしま特別編「お好みワイドひろしま」×「テレビ派」コラボ　第２弾「西日本豪雨　被災地からの声　～今、私たちにできること～」を見た。サブタイトルに「今、私たちにできること」とあるが、“私たち”が誰を指すのか、見ていて分からなかった。内容も西日本豪雨の被災地からの現状報告にとどまるなど、両局が一緒になってできることを考えていく、という具体的な提案もなく、このＮＨＫと地域民放テレビ局とのコラボレーション自体に意味があるのか疑問に思った。気になったのは視聴者から届いたメールを紹介する際に、アナウンサーが読み上げる内容と、スーパーで出された文言が異なっていたこと。掲げられたテーマについて、生放送を見ながら一緒に考えるつもりだったのが、メールやスーパーが事

前に準備されたものだと感じたとたん、番組に対して距離を感じてしまった。

（ＮＨＫ側）

地域民放テレビ局とのコラボ企画を始めるきっかけは、メディアの影響力が低下しているなか、テレビにいま何ができるのか、可能性を探りたいと思ったこと。第１弾は広島東洋カープ、第２弾は西日本豪雨をテーマに放送したが、今後も広島県内で共通するテーマについて、放送局を越えて一緒に模索していきたいと考えている。サブタイトルの「今、私たちにできること」は、まずは２つのテレビ局が主体となってテーマを設定し、テレビを見ている人と一緒になって考えることができれば、と考えて決めた。視聴者からのメッセージについては、放送日よりも前に募集を始めていたこともあって、放送前に頂いたもののなかからいくつか紹介した。

（ＮＨＫ側）

今後も民放と協力しながら、互いの特性を生かす試みを続けたい。第３弾以降の制作にあたっては、頂いた意見を参考に期待していただけるような番組にしたい。

○　６月７日(金)「テレビ６０年、とっとりと。～春～」(総合 後7:30～8:41 鳥取県域)を見た。懐かしい白黒映像から最新機材で撮影した映像を通して、鳥取県の６０年間を振り返ることができた。７０分を超える長い番組だったが、自身の思い出と重ねながら、感慨深く見ることができた。８Ｋタイムラプスによる鳥取砂丘の色彩豊かな映像や、初心者にも分かりやすい大山登山のノウハウの紹介など、鳥取県の自然・文化・暮らしが伝わるラインナップだった。地元地域の変化に加え、テレビ技術の進歩も伝わる、すばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、鳥取県が舞台となったアーカイブス番組を齋藤舜介アナウンサーがナビゲーターとなってそれぞれ紹介していくという手法

をとった。番組を見て、鳥取の歴史だけでなくテレビの歴史をもくみ取っていただいたようで非常にありがたく思う。今後も季節ごとに番組のラインアップを検討し、あと３回放送する予定なので、さらに満足いただけるよう工夫したい。

○　「テレビ６０年、とっとりと。～春～」を見た。“嫁殺し”と言われるほど過酷だった砂丘地の水くみなど、６０年前の貴重な映像が放送され、くぎづけになってテレビに見入った。ナビゲーターを務める齋藤アナウンサーが、明るく爽やかに進行していたのが印象的だった。「８Ｋタイムラプス紀行　鳥取砂丘のいろどり」のパートでは、星空など自然の風景は非常に美しかったが、人の動きのコマ送りが多かったと感じた。また「トリ★トーク　大山登山ガイド」のパートで、五味哲太アナウンサーが大山の１合目までしか登っていなかった。大山は、６合目から本格的な登山となり、頂上まで登るのは非常に厳しい道のりとなる。登頂に必要な事前準備を行い、厳しい条件にも耐えうる装備で頂上まで登る様子を見せることで、視聴者に登山のマナーを示してほしかった。

（ＮＨＫ側）

この番組はモニターからの評価は分かれており、若い世代からは「昔の番組だったので単調で退屈だった」という厳しい意見も頂いた。アーカイブス番組の選定や番組進行のしかたを工夫し、次回はより幅広い世代に見られる番組にしたいと考えている。また、大山登山の厳しさについては、本格的な登山シーズンに入る前に、ニュースや情報番組等を通じて、適宜情報を提供していきたい。

○　６月１３日(木)「あさイチ」内で放送された、「知っておきたい　豪雨の際の避難のタイミング」という企画を見た。番組内で紹介された岡山県の親子の映像を見て感じたのは、被害が起こるのは、自分の住んでいる地域は大丈夫だという思い込みや、実際に警戒レベルが上がっても取るべき行動が分かっていないからではないか。「あさイチ」では５段階の「大雨警戒レベル」を紹介したうえで「マイ・タイムライン」という指標を説明していたが、とても分かりやすく勉強になった。

（ＮＨＫ側）

「あさイチ」内で紹介した映像は、岡山局取材班の記者が見つけたもので、豪雨時に避難を拒否する父親を息子が必死に説得する様子を撮ったものだ。今回はその親子に「あさイチ」に出演していただき、当時の様子や体験談を語ってもらった。そのため、番組を見た人が身につまされるような、自分にも起こりうることだと考えられる内容になっており、その後紹介した「マイ・タイムライン」という指標についても、より身近なものに感じられたのではないかと思う。

○　６月１３日(木)「もぎたて！」を見た。西日本豪雨で被害を受けた高梁川流域で「高梁川水害タイムライン」が発表されたと伝えられた。同じ日の「あさイチ」で「マイ・タイムライン」の説明を聞いた後だったので、よく理解できたが、夕方のニュース番組を見ただけでは「タイムライン」が何か、理解するのが難しかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

「もぎたて！」だけでは情報不足だったという指摘について、県内の視聴者にしっかりニュースが伝わるような方法を考えていきたい。７月は西日本豪雨から１年という節目を迎える。地域番組の「もぎたて！」や「＠ｏｋａｙａｍａ」でもしっかりと情報を伝え、防災に役立ててもらえるよう取り組みたい。

（ＮＨＫ側）

昨年の西日本豪雨では、ＮＨＫも注意喚起に力を入れたものの、自分の住んでいる地域は大丈夫だと思い込み、避難した人は少なかったため被害が拡大したと思われる。これを受け、豪雨時に実際に避難行動に移してもらうためにどう伝えればいいか、どういう放送をすれば人命を救えるかを考えて取り組んでいる。地域に密着した情報を丁寧に伝え、見ている人に身近に迫った危険を認識してもらうことで、災害によ

る被害を少しでも減らせるよう努めたい。

○　６月１３日(木)・１４日(金)に連続で放送された、さんいんスペシャル「√るーとｈｉｇｈ↑２　１０周年スペシャル」(総合 後7:30～7:55 13日・鳥取県域 14日・山陰ﾌﾞﾛｯｸ)を見た。独特のゆるい雰囲気が見ていて心地よく、この１０年で本当にたくさんの地元の人たちと出会ってきたことがよく分かった。「お便りコーナー」では、１０年前に出会った少年が今は世界的なスノーボード選手として活躍する様子が紹介されていて、特に印象に残った。今回のように機会をとらえて、さまざまな人との出会いを振り返る企画をまた放送してほしい。

○　さんいんスペシャル「√るーとｈｉｇｈ↑２　１０周年スペシャル」を見た。初日は出演者の二人に過去の放送の中から厳選したクイズを出題していたが、智頭町のおばあさんとのやりとりが特に大笑いした。笑うことで前向きな気持ちにさせてくれるので、バラエティー番組のよさを感じることができた。

(ＮＨＫ側)

「√るーとｈｉｇｈ↑２　１０周年スペシャル」を放送することで、１０年間にわたり県内各地の人と出会ってきた積み重ねを改めて実感した。鳥取への尊敬の念を忘れず、今後も番組を続けていきたい。

○　６月１４日(金) Ｙスペ！「西日本豪雨１年　命を守る“率先避難”」を見た。番組の冒頭で、避難が遅れて家族を亡くした人と、早く避難して家族が助かった人の対照的な家族のインタビューが紹介されていた。率先避難というテーマに沿って分かりやすい事例が提示されていたものの、失敗例と成功例が並べられたようで、むしろ率先避難をせずに家族を亡くされた人の切なさが印象に残ってしまい、番組構成に疑問を感じた。また、スタジオで男性アナウンサーと専門家が率先避難の対策を論じていたが、専門家の口調が単調で聞きづらかった。対話するアナウンサーがテンポよく話を受けるなどの工夫があればよかった。

（ＮＨＫ側）

早めに避難を始めた家族が助かった事例を紹介することで、率先避難につながる、という流れにするために対照的な２つの家族の事例とインタビューを並べて紹介したのだが、家族を亡くした人の体験談だけが強い印象を残してしまうと、番組自体のメッセージが伝わらなくなってしまうので、構成については気をつけたい。

○　Ｙスペ！「西日本豪雨１年　命を守る“率先避難”」を見た。被害を受けた人は「まさか」という言葉を使うが、災害は起こりうる所で起きていると専門家が指摘していた。日頃から災害に対する危機意識を持っておく必要があり、そのためにはメディアの力が必要だと思う。特に６月から７月にかけては豪雨災害が発生しやすいので、番組やニュースを通じた注意喚起をお願いしたい。

（ＮＨＫ側）

番組で専門家も「災害に対する危機意識を持つのが大事」とコメントしていたが、テレビだけでなくラジオやインターネットなど、さまざまなメディアを活用して、災害に対する注意喚起をする役割を今後も果たしていきたい。

○　６月９日(日)小さな旅「ホーランエンヤ　～島根県　松江市～」を見た。船の中心で踊る大役を任された少年と彼を支える母親の姿に感動した。１０年に１度の祭りを守り続ける地元の人々の熱意と、脈々と続く伝統のすばらしさを感じた。

○　小さな旅「ホーランエンヤ～島根県　松江市～」を見た。少年を支える母親の姿が最も印象に残った。大橋川にホーランエンヤの生の声が響く様子はすばらしく、郷土の誇りに感じられる非常によいお祭りだった。伝統的な祭りを継承するのは大変なので、それをテーマに扱った番組も期待したい。

（ＮＨＫ側）

「小さな旅」ではホーランエンヤの背景にある地域のつながりや家族の絆などを中心に描き、ドキュメンタリーの要素を多くした。視聴者から、祭りの説明が少なくどんな祭りなのかわかりづらかったという声もいただいているので、今後に生かしていきたい。

○　６月７日(金) 新日本風土記・選「倉敷」を見た。日本初の西洋美術館である大原美術館を中心に、倉敷の町と人々の暮らしが紹介されていた。映像が美しいだけでなく、ジーンズなど倉敷の地域産業やそれを支える人々も登場し、さまざまな倉敷の面を知ることができるよい番組だった。

○　６月９日(日)ＮＨＫスペシャル「天安門事件　運命を決めた５０日」を見た。当時の関係者のインタビューも交えつつ３０年前の天安門事件に迫る番組で、大変勉強になり、さすがＮＨＫだと感心した。ちょうど香港でデモが行われている時期と重なり、この２つの状況がリンクして、今後どう展開するのだろうと考えさせられた。今後も鋭く批評する番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

当時は命がけで中国での取材を行い、テープやフィルムをどうにか日本まで持ち帰ったと聞いている。今になってさまざまな事実が明らかになったという番組だ。頂いた意見は担当者に伝える。

○　６月９日(日)激動の世界をゆく「巨龍　中国の“素顔”を探して」(ＢＳ１　後10:00～10:50、11:00～11:49)を見た。取材規制が厳しい中国で、一般市民を取材し、中国の人々の素顔を探ろうとするチャレンジングな番組だった。日中互いの国民がプロパガンダに踊らされていると感じているので、中国に暮らす普通の人々が何を思い、どう生きようとしているのかを知ることは大切だと思った。

（ＮＨＫ側）

先日モンテカルロ・テレビ祭でＮＨＫスペシャル「消えた弁護士たち～中国“法治”社会の現実～」が審査員特別賞を受賞した。この番組も

中国の厳しい取材規制のなかリスクを取って撮影したものだと聞いている。これらのように苦労して制作した番組を評価していただけるのは大変励みになるので、番組担当者に伝える。

○　ミニ番組「パラリンピック応援“ヤツら　ただものじゃない”編」シリーズを見た。陸上・トラックの佐藤友祈選手やパラ・アーチェリーの上山友裕選手など、東京大会で活躍が期待される選手が出演し、競技の魅力や意気込みを紹介していた。ＮＨＫはパラリンピックの選手をしっかりと取材し盛り上げていこうとする姿勢を感じている。今後も期待している。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫではオリンピック同様、パラリンピックにも力を入れており、2020 年以降も共生社会実現への貢献に取り組んでいく方針だ。東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げる番組がさらに増えていくだろうが、機会があればローカルでもそのような番組を制作したい。

○　犯罪のニュースを伝える際に容疑者の背景を事細かに説明するという印象がある。いわゆる「劇場型犯罪」の場合、犯人が注目されることを目的に犯行に及ぶことがある。これを考慮すると、容疑者の情報を詳細に伝える必要があるのかと疑問に感じた。

（ＮＨＫ側）

以前から事件報道では被疑者や被害者の情報を詳しく伝えてきた。どこまで詳細に伝えるかは議論があるが、覚せい剤使用歴など、公共放送として報道する意義があると判断した場合、社会に警鐘を鳴らすという意味で、情報を伝えていくべきだと考えている。

○　５月１７日(金)ラウンドちゅうごく「父さん　また桜が咲いたよ～西日本豪雨　遺族の日々～」を見た。昨年の豪雨災害で家族を失った人たちが悲しみを抱えながらも徐々に立ち直っていく姿がうまく描かれていた。番組の最後では、父親を失った女性が今年４月に断水が解消した家に戻り、庭で被害を受けた桜が再び美しく咲く様子を

見て喜んでいたが、このシーンが完成後に付け足したような印象の編集になっていたのが残念だった。

ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校大変身のウラガワ」を見た。それぞれの公立高校の様子が興味深かった。都会からの留学生が地域に与える影響にも考慮しており、高校は地域にとって一種の公共財であることが伝わってきた。また、東京から島根県の高校に進学した子どもをはじめ、出演者のコメントが番組のねらいに沿っていて分かりやすく、都会から留学生を迎える理由に説得力を加えていた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年６月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木)、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、７月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ代表取締役社長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）

（主な発言）

＜放送番組全般について＞

○　　５月１８日(土)「生中継！松江・ホーランエンヤ　～１０年に１度の大水上絵巻～」(総合 前10:00～11:00 中国ﾌﾞﾛｯｸ)を見た。１０年に１度の貴重な船神事ということもあり、事前にロケや取材を丁寧に行うことで、関わる人々をはじめ、伝統や背景に至るまで番組内でしっかり説明されていた。ただ、ホーランエンヤに関する番組が事前に数多く放送されていたのを見ていたこともあり、今回の番組では生中継らしい、ライブ感があふれる映像であればもっとよかったと感じた。

○　　「生中継！松江・ホーランエンヤ～１０年に１度の大水上絵巻～」を見た。１０年に１度の祭りだと聞いていたので、生中継をとても期待して見ていたのだが、画面か

らは祭りの熱気があまり伝わって来ず、祭りの紹介が淡々と行われたという印象を受けたのが残念だった。例えばドローンを使用して上空から祭りの全貌を撮影するなど、より臨場感を伝えることのできる演出を行ってもよかったのではないかと感じた。

（ＮＨＫ側）

ホーランエンヤの生中継に関しては、どのように伝えていくか議論を重ねた。祭りの様子を生中継で伝えていくと同時に、船に乗る人たちの絆や思いをＶＴＲできちんと紹介していくという方法をとったので、ライブ感では少しもの足りなさを感じられたのかもしれない。また、ドローンによる撮影も検討したが、人が多く集まる場所での使用となるため、万が一のことを考え控えることにした。次回は１０年後だが、頂いた意見を生かすことができるよう、申し送っていきたい。

○　５月２４日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「怠け者と呼ばないで　～知ってほしい　起立性調節障害～」を見た。不登校生徒のうち約３割は起立性調節障害の可能性がある、という話を聞いて、不登校に関するイメージが大きく変わった。自分の子どもの周りにも不登校の生徒たちがいるため、この問題に改めて関心を持つことができた。番組では岡山県の対策が紹介されていたが、これは他の地域でも取り組むべき課題だと思うので、ぜひ全国放送を期待したい。

（ＮＨＫ側）

発達障害やパニック障害などのため、生きづらさを感じている人も少なくないと聞いており、これらの症状に対する関心が高く、取り上げた番組への反響も大きい。起立性調節障害についても、その存在を知らずに不登校に苦しんでいる親子もいるのではないか。これらの問題をより多くの人に知ってもらうためにも、中国地方での放送にとどまらず、より広い地域に発信していければと考えている。

○　５月３１日(金)ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校　大変身のウラガワ」を見た。番組ではこの取り組みにより、都会の生

徒を受け入れる町が変わっていく様子が紹介されていた。丁寧に取材をしていたようだが、２５分の放送時間では少し短く、それぞれの学校の取り組みの長所を少しずつ紹介した後、スタジオの出演者のコメントでまとめるのにとどまっていたのが残念だった。7月放送の「さんいんスペシャル」でも同じテーマを取り上げると聞いており、次回は“留学”が都会から来た生徒にそれぞれどのような変化をもたらしたのかなど、さらに踏み込んで伝えてほしい。またこのような動きを全国にも発信して、より多くの人に知ってもらいたい。

（ＮＨＫ側）

番組で紹介したような取り組みを積極的に行っている地域はほかにあまり見られないのではないかと思う。生徒それぞれの変化も含めて、引き続きこの動きをより深く掘り下げた取材を行うよう、担当者に伝える。

（ＮＨＫ側）

担当したディレクターからは、伝えたい内容が多かったため放送時間内に情報を収めることが難しかったと聞いている。７月放送予定の「さんいんスペシャル」では頂いた意見を参考に、より丁寧に伝えられるよう努めたい。

○　ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校大変身のウラガワ」を見た。この取り組みを軌道に乗せることができたことに関する苦労話がほとんどなく、それぞれの事例のよい部分だけが紹介されていたため、まるで各学校の宣伝番組のように感じた。一方で、私立ではなく公立の高校がこのような取り組みを行っていることを知り、誰がどのように働きかけて実現したのか、その事情が知りたいと非常に興味が湧いたが、その部分には触れられなかったのも残念だった。「ラウンドちゅうごく」という番組を見ていると、オープニングやスタジオ部分の有無、生中継や収録など、毎回異なる演出方法で制作されているように見受けられる。このように放送回ごとにばらつきがあると、番組が広く認知されるのは難しいのではないか。

（ＮＨＫ側）

地域への“留学”が進む背景については、やはりプラス面、マイナス面の両面があると思う。「ラウンドちゅうごく」は昨年春にスタートした番組で、試行錯誤しながら制作してきた。頂いた意見をもとに、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校大変身のウラガワ」、「怠け者と呼ばないで　～知ってほしい　起立性調節障害～」それぞれを見た。放送時間が短かったという話も出ていたが、伝えたい内容を放送時間にあわせて入れ込むのが制作者の技量だと思うので、今後に期待したい。「ラウンドちゅうごく」は、先に挙げた公立高校の“留学”や、起立性調節障害を取り上げるなど、意欲的に問題提起を行っている。身近な問題を取り上げ、中国地方、そして全国的な課題にしていくといった気概を持って、今後も制作を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

「ラウンドちゅうごく」は、域内各局と連携を深めることで、中国地方全体の問題を掘り下げていく方針で制作している。番組が始まって１年がたったが、頂いた意見を参考にさらなるブラッシュアップを図っていきたい。

○　６月５日(水)お好みワイドひろしま特別編「お好みワイドひろしま」×「テレビ派」コラボ　第２弾「西日本豪雨　被災地からの声　～今、私たちにできること～」を見た。サブタイトルに「今、私たちにできること」とあるが、“私たち”が誰を指すのか、見ていて分からなかった。内容も西日本豪雨の被災地からの現状報告にとどまるなど、両局が一緒になってできることを考えていく、という具体的な提案もなく、このＮＨＫと地域民放テレビ局とのコラボレーション自体に意味があるのか疑問に思った。気になったのは視聴者から届いたメールを紹介する際に、アナウンサーが読み上げる内容と、スーパーで出された文言が異なっていたこと。掲げられたテーマについて、生放送を見ながら一緒に考えるつもりだったのが、メールやスーパーが事

前に準備されたものだと感じたとたん、番組に対して距離を感じてしまった。

（ＮＨＫ側）

地域民放テレビ局とのコラボ企画を始めるきっかけは、メディアの影響力が低下しているなか、テレビにいま何ができるのか、可能性を探りたいと思ったこと。第１弾は広島東洋カープ、第２弾は西日本豪雨をテーマに放送したが、今後も広島県内で共通するテーマについて、放送局を越えて一緒に模索していきたいと考えている。サブタイトルの「今、私たちにできること」は、まずは２つのテレビ局が主体となってテーマを設定し、テレビを見ている人と一緒になって考えることができれば、と考えて決めた。視聴者からのメッセージについては、放送日よりも前に募集を始めていたこともあって、放送前に頂いたもののなかからいくつか紹介した。

（ＮＨＫ側）

今後も民放と協力しながら、互いの特性を生かす試みを続けたい。第３弾以降の制作にあたっては、頂いた意見を参考に期待していただけるような番組にしたい。

○　６月７日(金)「テレビ６０年、とっとりと。～春～」(総合 後7:30～8:41 鳥取県域)を見た。懐かしい白黒映像から最新機材で撮影した映像を通して、鳥取県の６０年間を振り返ることができた。７０分を超える長い番組だったが、自身の思い出と重ねながら、感慨深く見ることができた。８Ｋタイムラプスによる鳥取砂丘の色彩豊かな映像や、初心者にも分かりやすい大山登山のノウハウの紹介など、鳥取県の自然・文化・暮らしが伝わるラインナップだった。地元地域の変化に加え、テレビ技術の進歩も伝わる、すばらしい番組だった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、鳥取県が舞台となったアーカイブス番組を齋藤舜介アナウンサーがナビゲーターとなってそれぞれ紹介していくという手法

をとった。番組を見て、鳥取の歴史だけでなくテレビの歴史をもくみ取っていただいたようで非常にありがたく思う。今後も季節ごとに番組のラインアップを検討し、あと３回放送する予定なので、さらに満足いただけるよう工夫したい。

○　「テレビ６０年、とっとりと。～春～」を見た。“嫁殺し”と言われるほど過酷だった砂丘地の水くみなど、６０年前の貴重な映像が放送され、くぎづけになってテレビに見入った。ナビゲーターを務める齋藤アナウンサーが、明るく爽やかに進行していたのが印象的だった。「８Ｋタイムラプス紀行　鳥取砂丘のいろどり」のパートでは、星空など自然の風景は非常に美しかったが、人の動きのコマ送りが多かったと感じた。また「トリ★トーク　大山登山ガイド」のパートで、五味哲太アナウンサーが大山の１合目までしか登っていなかった。大山は、６合目から本格的な登山となり、頂上まで登るのは非常に厳しい道のりとなる。登頂に必要な事前準備を行い、厳しい条件にも耐えうる装備で頂上まで登る様子を見せることで、視聴者に登山のマナーを示してほしかった。

（ＮＨＫ側）

この番組はモニターからの評価は分かれており、若い世代からは「昔の番組だったので単調で退屈だった」という厳しい意見も頂いた。アーカイブス番組の選定や番組進行のしかたを工夫し、次回はより幅広い世代に見られる番組にしたいと考えている。また、大山登山の厳しさについては、本格的な登山シーズンに入る前に、ニュースや情報番組等を通じて、適宜情報を提供していきたい。

○　６月１３日(木)「あさイチ」内で放送された、「知っておきたい　豪雨の際の避難のタイミング」という企画を見た。番組内で紹介された岡山県の親子の映像を見て感じたのは、被害が起こるのは、自分の住んでいる地域は大丈夫だという思い込みや、実際に警戒レベルが上がっても取るべき行動が分かっていないからではないか。「あさイチ」では５段階の「大雨警戒レベル」を紹介したうえで「マイ・タイムライン」という指標を説明していたが、とても分かりやすく勉強になった。

（ＮＨＫ側）

「あさイチ」内で紹介した映像は、岡山局取材班の記者が見つけたもので、豪雨時に避難を拒否する父親を息子が必死に説得する様子を撮ったものだ。今回はその親子に「あさイチ」に出演していただき、当時の様子や体験談を語ってもらった。そのため、番組を見た人が身につまされるような、自分にも起こりうることだと考えられる内容になっており、その後紹介した「マイ・タイムライン」という指標についても、より身近なものに感じられたのではないかと思う。

○　６月１３日(木)「もぎたて！」を見た。西日本豪雨で被害を受けた高梁川流域で「高梁川水害タイムライン」が発表されたと伝えられた。同じ日の「あさイチ」で「マイ・タイムライン」の説明を聞いた後だったので、よく理解できたが、夕方のニュース番組を見ただけでは「タイムライン」が何か、理解するのが難しかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

「もぎたて！」だけでは情報不足だったという指摘について、県内の視聴者にしっかりニュースが伝わるような方法を考えていきたい。７月は西日本豪雨から１年という節目を迎える。地域番組の「もぎたて！」や「＠ｏｋａｙａｍａ」でもしっかりと情報を伝え、防災に役立ててもらえるよう取り組みたい。

（ＮＨＫ側）

昨年の西日本豪雨では、ＮＨＫも注意喚起に力を入れたものの、自分の住んでいる地域は大丈夫だと思い込み、避難した人は少なかったため被害が拡大したと思われる。これを受け、豪雨時に実際に避難行動に移してもらうためにどう伝えればいいか、どういう放送をすれば人命を救えるかを考えて取り組んでいる。地域に密着した情報を丁寧に伝え、見ている人に身近に迫った危険を認識してもらうことで、災害によ

る被害を少しでも減らせるよう努めたい。

○　６月１３日(木)・１４日(金)に連続で放送された、さんいんスペシャル「√るーとｈｉｇｈ↑２　１０周年スペシャル」(総合 後7:30～7:55 13日・鳥取県域 14日・山陰ﾌﾞﾛｯｸ)を見た。独特のゆるい雰囲気が見ていて心地よく、この１０年で本当にたくさんの地元の人たちと出会ってきたことがよく分かった。「お便りコーナー」では、１０年前に出会った少年が今は世界的なスノーボード選手として活躍する様子が紹介されていて、特に印象に残った。今回のように機会をとらえて、さまざまな人との出会いを振り返る企画をまた放送してほしい。

○　さんいんスペシャル「√るーとｈｉｇｈ↑２　１０周年スペシャル」を見た。初日は出演者の二人に過去の放送の中から厳選したクイズを出題していたが、智頭町のおばあさんとのやりとりが特に大笑いした。笑うことで前向きな気持ちにさせてくれるので、バラエティー番組のよさを感じることができた。

(ＮＨＫ側)

「√るーとｈｉｇｈ↑２　１０周年スペシャル」を放送することで、１０年間にわたり県内各地の人と出会ってきた積み重ねを改めて実感した。鳥取への尊敬の念を忘れず、今後も番組を続けていきたい。

○　６月１４日(金) Ｙスペ！「西日本豪雨１年　命を守る“率先避難”」を見た。番組の冒頭で、避難が遅れて家族を亡くした人と、早く避難して家族が助かった人の対照的な家族のインタビューが紹介されていた。率先避難というテーマに沿って分かりやすい事例が提示されていたものの、失敗例と成功例が並べられたようで、むしろ率先避難をせずに家族を亡くされた人の切なさが印象に残ってしまい、番組構成に疑問を感じた。また、スタジオで男性アナウンサーと専門家が率先避難の対策を論じていたが、専門家の口調が単調で聞きづらかった。対話するアナウンサーがテンポよく話を受けるなどの工夫があればよかった。

（ＮＨＫ側）

早めに避難を始めた家族が助かった事例を紹介することで、率先避難につながる、という流れにするために対照的な２つの家族の事例とインタビューを並べて紹介したのだが、家族を亡くした人の体験談だけが強い印象を残してしまうと、番組自体のメッセージが伝わらなくなってしまうので、構成については気をつけたい。

○　Ｙスペ！「西日本豪雨１年　命を守る“率先避難”」を見た。被害を受けた人は「まさか」という言葉を使うが、災害は起こりうる所で起きていると専門家が指摘していた。日頃から災害に対する危機意識を持っておく必要があり、そのためにはメディアの力が必要だと思う。特に６月から７月にかけては豪雨災害が発生しやすいので、番組やニュースを通じた注意喚起をお願いしたい。

（ＮＨＫ側）

番組で専門家も「災害に対する危機意識を持つのが大事」とコメントしていたが、テレビだけでなくラジオやインターネットなど、さまざまなメディアを活用して、災害に対する注意喚起をする役割を今後も果たしていきたい。

○　６月９日(日)小さな旅「ホーランエンヤ　～島根県　松江市～」を見た。船の中心で踊る大役を任された少年と彼を支える母親の姿に感動した。１０年に１度の祭りを守り続ける地元の人々の熱意と、脈々と続く伝統のすばらしさを感じた。

○　小さな旅「ホーランエンヤ～島根県　松江市～」を見た。少年を支える母親の姿が最も印象に残った。大橋川にホーランエンヤの生の声が響く様子はすばらしく、郷土の誇りに感じられる非常によいお祭りだった。伝統的な祭りを継承するのは大変なので、それをテーマに扱った番組も期待したい。

（ＮＨＫ側）

「小さな旅」ではホーランエンヤの背景にある地域のつながりや家族の絆などを中心に描き、ドキュメンタリーの要素を多くした。視聴者から、祭りの説明が少なくどんな祭りなのかわかりづらかったという声もいただいているので、今後に生かしていきたい。

○　６月７日(金) 新日本風土記・選「倉敷」を見た。日本初の西洋美術館である大原美術館を中心に、倉敷の町と人々の暮らしが紹介されていた。映像が美しいだけでなく、ジーンズなど倉敷の地域産業やそれを支える人々も登場し、さまざまな倉敷の面を知ることができるよい番組だった。

○　６月９日(日)ＮＨＫスペシャル「天安門事件　運命を決めた５０日」を見た。当時の関係者のインタビューも交えつつ３０年前の天安門事件に迫る番組で、大変勉強になり、さすがＮＨＫだと感心した。ちょうど香港でデモが行われている時期と重なり、この２つの状況がリンクして、今後どう展開するのだろうと考えさせられた。今後も鋭く批評する番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

当時は命がけで中国での取材を行い、テープやフィルムをどうにか日本まで持ち帰ったと聞いている。今になってさまざまな事実が明らかになったという番組だ。頂いた意見は担当者に伝える。

○　６月９日(日)激動の世界をゆく「巨龍　中国の“素顔”を探して」(ＢＳ１　後10:00～10:50、11:00～11:49)を見た。取材規制が厳しい中国で、一般市民を取材し、中国の人々の素顔を探ろうとするチャレンジングな番組だった。日中互いの国民がプロパガンダに踊らされていると感じているので、中国に暮らす普通の人々が何を思い、どう生きようとしているのかを知ることは大切だと思った。

（ＮＨＫ側）

先日モンテカルロ・テレビ祭でＮＨＫスペシャル「消えた弁護士たち～中国“法治”社会の現実～」が審査員特別賞を受賞した。この番組も

中国の厳しい取材規制のなかリスクを取って撮影したものだと聞いている。これらのように苦労して制作した番組を評価していただけるのは大変励みになるので、番組担当者に伝える。

○　ミニ番組「パラリンピック応援“ヤツら　ただものじゃない”編」シリーズを見た。陸上・トラックの佐藤友祈選手やパラ・アーチェリーの上山友裕選手など、東京大会で活躍が期待される選手が出演し、競技の魅力や意気込みを紹介していた。ＮＨＫはパラリンピックの選手をしっかりと取材し盛り上げていこうとする姿勢を感じている。今後も期待している。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫではオリンピック同様、パラリンピックにも力を入れており、2020 年以降も共生社会実現への貢献に取り組んでいく方針だ。東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げる番組がさらに増えていくだろうが、機会があればローカルでもそのような番組を制作したい。

○　犯罪のニュースを伝える際に容疑者の背景を事細かに説明するという印象がある。いわゆる「劇場型犯罪」の場合、犯人が注目されることを目的に犯行に及ぶことがある。これを考慮すると、容疑者の情報を詳細に伝える必要があるのかと疑問に感じた。

（ＮＨＫ側）

以前から事件報道では被疑者や被害者の情報を詳しく伝えてきた。どこまで詳細に伝えるかは議論があるが、覚せい剤使用歴など、公共放送として報道する意義があると判断した場合、社会に警鐘を鳴らすという意味で、情報を伝えていくべきだと考えている。

○　５月１７日(金)ラウンドちゅうごく「父さん　また桜が咲いたよ～西日本豪雨　遺族の日々～」を見た。昨年の豪雨災害で家族を失った人たちが悲しみを抱えながらも徐々に立ち直っていく姿がうまく描かれていた。番組の最後では、父親を失った女性が今年４月に断水が解消した家に戻り、庭で被害を受けた桜が再び美しく咲く様子を

見て喜んでいたが、このシーンが完成後に付け足したような印象の編集になっていたのが残念だった。

ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「都会から生徒が押しよせる　公立高校大変身のウラガワ」を見た。それぞれの公立高校の様子が興味深かった。都会からの留学生が地域に与える影響にも考慮しており、高校は地域にとって一種の公共財であることが伝わってきた。また、東京から島根県の高校に進学した子どもをはじめ、出演者のコメントが番組のねらいに沿っていて分かりやすく、都会から留学生を迎える理由に説得力を加えていた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年５月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木)、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０１８度中国地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見を交換したあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、６月の番組編成の説明がそれぞれ行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	笠原　浩	（広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）

（主な発言）

＜放送番組全般について＞

○　４月２６日(金) ラウンドちゅうごく～為になるテレビ～「“被爆の実相”に迫る～生まれ変わった原爆資料館～」を見た。リニューアルした広島平和記念資料館の新しい展示内容やそのねらいについて、前館長とともに生中継で展示資料も見せながら分かりやすく説明していて、大変説得力があった。大型連休中の入館者数は大変多かったようだが、ＮＨＫも一役買っていたのではないか。実物資料や被爆者の証言を基に被爆の実相を伝える本館の展示だけでなく、それを補完して科学的データに基づき原爆の威力や被害について解説する東館の展示についても触れていたのがよかった。為末大キャスターのコメントやリアクションも実感がこもっていて事前にどのような

準備をしていたのか興味をひかれた。

（ＮＨＫ側）

リニューアルオープンの翌日の放送で、まだ実際の展示を目にした人が少ないことを踏まえて、１台のカメラで実際に展示順路をたどることで来館者がどのように展示と接することができるのか視聴者も体感できる中継を目指した。事前にそれぞれの展示前で何を伝えるべきか議論を重ねたが、為末キャスターが現場で感じたことを大切にして実際の放送になった。為末キャスター自身が被爆３世ということも、より説得力を増したのではないか。

○　４月２６日(金)「ラウンドちゅうごく」を見た。番組の冒頭、カメラが静かに入り口を入っていき、正面に掲げられた被爆した少女の写真に近づくと、おもむろに八田知大アナウンサーのナレーションが始まる演出で一気に引き込まれ、実際にその場で展示を見ているかのように感じることができた。犠牲になった人たち一人一人に物語があったことを何度も強調していた為末キャスターのコメントが印象的だった。この番組を見て、久々に資料館を訪れたが、資料館について定期的に取り上げることで足が遠のいていた人、行ったことがない人にも資料館に行ってみようと思わせることができると感じた。

（ＮＨＫ側）

今回の２５分の番組の中では伝えられていないこともあり、継続して取材していることもあるので、ことしの夏に向けて別の形で資料館について取り上げられないか検討している。

○　４月２６日(金)「ラウンドちゅうごく」を見た。すばらしい内容だったので、リニューアル以降混雑が続いていてじっくり見られない来館者、資料館に足を運べない人たちのためにも全国または海外に向けても放送してほしい。また、資料の劣化が進む前に８Ｋスーパーハイビジョン技術を生かして資料の記録を進めて、資料館と一緒になって有効活用をはかってほしい。

（ＮＨＫ側）

これまでも原爆の絵や被爆遺品など被爆の実相を伝える資料を８Ｋスーパーハイビジョンで記録して伝えることに取り組んできている。原爆の絵については、スーパーハイビジョン番組を制作するだけでなく、デジタル端末から任意の絵を選んで８Ｋモニターに表示するシステムを開発して資料館で公開もしている。これからも資料館と協力して映像資産の有効活用に取り組んでいきたい。

○　４月２６日(金)「ラウンドちゅうごく」を見た。今回のリニューアルにあたり、９年の歳月をかけて議論し、遺品と直接向き合えるようにガラスケースをなくすなど、大胆な変更を加えていったことが分かり、非常に興味深かった。もうすぐ被爆を実際に体験した人がいなくなることを意識して私たちの世代も語り継いでいかなければならないという思いを強くした。また、資料館が９０分の滞在時間を想定していたのに、実際は平均１９分しか滞在していないことも問題意識の一つだったそうだが、同様の課題に直面しているほかの博物館や資料館にも参考になると思った。

海外の人と太平洋戦争や第２次世界大戦について話していると、私たちにとって常識だと思っていることが知られていないこと、また彼らがどのように教えられているか私たちが知らないことに気付かされる。戦争について検証する際にはどうしたら悲劇を繰り返さないで済むのか、議論をするための共通の土台を作っていくことも意識しながら取り組んでほしい。

（ＮＨＫ側）

私たちには広島の原爆投下の実相を記録し、被爆体験を継承していくという役割があるのと同時に、原爆投下の経緯、その後の国際情勢の中で原爆投下の事実がどのように伝えられてきたかということを解明することも重要なテーマだ。多角的な観点からこの問題に切り込んでいくことが大切だと考えている。今後も継続して取り組んでいきたい。

○　４月１９日(金) ラウンドちゅうごく「死ぬまでここにおりたい　～北広島町芸

北・在宅医療の現場から～」を見た。広島の山間部で在宅医療を支える医師の活動に密着していて、老老介護の実態も知ることができた。住民のプライベートな部分にまで入って取材ができていてさすがＮＨＫと感心した。医療チームが患者の自宅でカンファレンスをしていたことには驚いたが、在宅医療・介護の現場にはこういった「できるはずの工夫」がまだまだあることにも気付かされたので、このことはもっと強調してもよかったと思う。そもそも自宅で最期を迎えることがいかに難しいかということをもう少し具体的に伝えられると取り組みの意義が理解しやすくなったと思う。高齢者の問題として捉えがちだが、将来的には誰もが当事者となり得る問題なのでぜひ現役世代も見るべき内容だと感じた。その意味でさまざまな視聴者が見やすい金曜午後７時３０分からの番組で取り上げたことは非常に意義のあることだと思う。

（ＮＨＫ側）

３年目の若手の女性ディレクターが担当したが、医師や住民たちとの信頼関係を築き、生活のうえでの現実的な悩みまで聞き出すことができたことが、説得力につながったと思う。自宅で最期を迎えることの難しさや、医療チームの患者自宅でのカンファレンスについては、もう少し伝え方を工夫できたかもしれない。

○　５月２日(木)「グラウンドの上で死にたい男～高校野球監督　迫田穆成（さこだよしあき）～」(総合 後 6:05～6:30　中国ﾌﾞﾛｯｸ)を見た。広島県の如水館高校の野球部監督の退任までの最後の１か月に密着していたが、本人のコメントに基づくインパクトのあるタイトルとは裏腹に内容が全体的に平板で少しもの足りなく感じた。高校野球に詳しい人には楽しめたのかもしれないが、選手と監督の絆に焦点を当てるなど、ポイントを絞って掘り下げたほうが多くの人にとって見やすくなったのではないか。また、迫田さんが黒い背景でインタビューを受けていたが、もう少し明るい背景でもよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

現場の音声やインタビューを大切にするいわゆるノーナレーションという手法で高校野球に人生をささげた歴史の重みや人間性を表現し

ようとしたが、番組モニター報告を見ても、視聴者の評価はおもしろかったという人と分からなかったという人に二分したようだ。頂いた意見も参考にしながら、立体的に人物像を描くにはどのような方法が効果的か模索していきたい。

○　４月２６日(金)＠ｏｋａｙａｍａ「さよなら　平成　～岡山に生きる　若者たちの今～」を見た。若者たちが先の見えない閉塞感（へいそくかん）に悩み、不安を抱えていることが伝わってきて、若者が希望を持てるような提案が必要だと感じた。

（ＮＨＫ側）

平成元年に生まれた若者たちは、物心ついた時には日本の経済が崩壊していて、不安に満ち満ちてこの３０年を生きてきたことを伝えられたと思う。たくさんの若者に取材して丁寧に編集した。平成という時代を適切に表現した節目にふさわしい企画になったのではないかと感じている。

○　５月７日(火)「いろ★ドリ」を見た。大型連休明けの最初の放送で、連休の過ごし方や鳥取県内の改元に関連した動きをまとめて伝えていた。その中で明治４４年に生まれ明治・昭和・平成を生き、令和を迎えた 108 歳の大山町の女性にインタビューしていたが、新しい時代についてしっかりした言葉でゆっくりと答えていて、４つの時代を生きた人の特別な重みを感じ感動を覚えた。彼女の人生に迫る番組も見てみたいと思った。

○　５月１０日(金)「いろ★ドリ」を見た。その中で放送していた「テレビｄｅやしろ荘」はラジオ番組の内容を放送風景も含めてそのままテレビで紹介していて斬新な取り組みだと感じた。スタジオでないところで放送している様子がとても自然体に感じられておもしろかった。

（ＮＨＫ側）

「テレビｄｅやしろ荘」は年６回の中国地方向けのラジオ番組「やし

ろ荘でごにょごにょ」の放送の様子をテレビ向けに収録してその一部を紹介する「いろ★ドリ」のコーナーだ。今回は特別に鳥取放送局のロビーから放送した回を伝えたが、自然体でおもしろいと受け取ってもらえたのはよかった。これからも楽しみにしてほしい。

○　５月１０日(金) さんいんスペシャル 聖火のキセキ「島根　もう一人の“いだてん”のレガシー」を見た。バンクーバーオリンピックの女子ボブスレー日本代表だった浅津このみさんがリポーターとなって、聖火ランナーの方々から当時の話を聞いていくことで話が深まっていてとてもよかった。この番組を見て島根県からたくさんのオリンピック選手が輩出されていることを初めて知り驚いた。日本のトップアスリートを育て、そして次世代へと受け継いでいっていることがよく分かる番組だった。

（ＮＨＫ側）

ＢＳ１で放送している「聖火のキセキ」の中で、島根県を取材した回を島根県・鳥取県向けに「さんいんスペシャル」として地上波でも放送した。地元でもあまり知られていないアスリートもまだいるので、積極的に取り上げることで来年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて関心を盛り上げていきたい。

○　４月２６日(金) Ｙスペ！「小さな旅　下関市　豊北町」を見た。東京から移住して伝統漁法を受け継ごうとしている若い夫婦が、先輩漁師の助けを借りながらひたむきに生きる姿を紹介する心温まる内容だった。また、ドローン撮影した洋上の景色も見応えがありすばらしかった。ただ、途中で陶芸家の話題など別のエピソードも紹介されていたが、エピソードどうしに関連性が無く、分かりにくく感じた。

５月１０日(金) Ｙスペ！「発見！体感！にっぽん水紀行　周防大島　いのち育む井戸を巡る」を見た。2018 年　１０月に、山口県周防大島町と本土を結ぶ大島大橋への貨物船の衝突事故により、周防大島町がおよそ４０日間断水した際、井戸水を使っている家が風呂をほかの住民に開放したエピソードを紹介していて、島民どうしが助け合う島という小さなコミュニティーのよさが伝わったと思う。リポーターのルー大柴さんはイメージと違い穏やかで誠実な人で、島の人たちが前向きに暮らしているこ

とに寄りそうコメントをしていたのがとてもよかった。被災地の現状を伝えるだけでなく、この番組のように事故の後も地域で頑張っている人たちを紹介することが復興にもつながるし、メディアの役割だと感じた。

○　Ｙスペ！「発見！体感！にっぽん水紀行」を見た。断水の際、井戸水を使った風呂をほかの住民にも貸していた様子を見て、便利な水道だけに頼るのではなく昔ながらの井戸も大切だと感じた。全体を通して周防大島の美しさが際立っていた。それと同時に水の重要さと怖さを知った番組だった。

（ＮＨＫ側）

断水で風呂に入れない人たちのために井戸の水を使った風呂を開放したエピソードで住民どうしがお互いに支え合う地域ならではのよさを伝えられたのはよかったと思う。

○　４月２２日(月）ファミリーヒストリー「お笑いコンビ千鳥・ノブ～カヤの木に守られて～」を見た。ノブさんの先祖一人一人のエピソードがドラマチックで、歴史の大切さ不思議さを感じた。自分の知らないエピソードを真剣に聞くノブさんのふだんは見られないような表情が印象的だった。自分のルーツを知ったことで芸に深みが出るのではないかと今後が楽しみだ。

○　４月２６日(金）あしたも晴れ！人生レシピ「“手作り”ライフを楽しむ！」を見た。自家製の天然酵母を使ったパンやビール作りで国内外から注目されているパン屋を紹介しており、このパン屋はよい素材を作れる環境を探し求めて鳥取県智頭町まで来たということだった。地域の資源や伝統技術など地域のよさを見直すよい番組だった。魅力的な食材を育んでいる地域の風景の美しさを紹介するともっとよかった。

（ＮＨＫ側）

番組で紹介したパン屋は、ほかの地域住民や自治体も巻き込んだネットワーク作りでも注目されている。地域経済の新しい動きとして今後も取り上げていきたい。

○　４月２７日(土) ＮＨＫスペシャル「崖っぷち！？わが町の議会」を見た。議会風のセットにマネキンを配置した人目を引くスタジオや若い人に人気のある芸能人がスタジオ出演するなど、若い世代にも見てもらおうとする工夫が随所に感じられた。議会では質問せず、自治体の職員に直接要望を伝える地方議員の活動や、住民から政策サポーターを募り、住民と政策作りを進めようとする取り組みなどの事例を紹介していたのはよかったが、巨額事業をチェックできずに財政破綻を招いた富山県高岡市のケースはもう少し掘り下げてほしかった。継続して関心を持ってもらうことが大切なので、中国地方でも引き続き取り組んでもらいたい。

（ＮＨＫ側）

制作にあたっては国政と比べて関心を持たれにくい地方議会について、さまざまな人に見てもらえるように工夫したと聞いている。議会で質問をせず、自治体の執行部に直接要求する議員の活動は現在の地方議会の状況を象徴するような事例だと感じている。中国地方でも地域の課題として引き続き地方議会について伝えていきたい。

○　世界に目を向ければ日本の選挙制度以外にもたくさんの制度がある。さまざまな選挙制度について伝えてもらえると、民主主義を支える選挙制度について考えるきっかけになると思う。

○　４月２４日(水) 沼にハマってきいてみた「極上のハーモニーに感動！アカペラ！！」と５月１４日(火)「時空を超えたロマン！“城”を攻める！」を見た。松江の高校生アカペラバンドと松江城が登場していた。地域の魅力的なものを東京制作の全国放送番組でも取り上げるのはとてもよいことだし、地元の期待も大きい。また、番組のダイジェスト動画を動画共有サイトに掲載するなど、インターネット・ＳＮＳを積極的に活用して、１０代の視聴者にアプローチしているのはすばらしいことだと思う。

（ＮＨＫ側）

ショート動画による情報共有が今の若者たちには親和性が高いと考えて取り組んでいる。ターゲットが明確な分、さまざまな新しい取り組みを試すことができる。

○　５月２日(木)「植物に学ぶ生存戦略２　話す人・山田孝之」(Eテレ 後 10:50～11:19)を見た。２作目の今回も初回と変わらず斬新な切り口と演出でよかった。着眼点がよく、もの言わぬ美しい植物にしたたかな戦略が隠されているかと思うと、植物に対する考え方が大きく変わった。このような実験的な番組は制作本数を多くしなくてもかまわないので、視聴者の度肝を抜く斬新な切り口を大切にしてもらいたい。

○　５月２日(木・祝) ＢＳ１スペシャル「ヨウジ　ヤマモト～時空を超える黒～」(ＢＳ1 後 10:00～10:49)を見た。黒を基調としたデザインにこだわり続け、若い世代や海外では再評価が広まっている山本耀司さんを取り上げていた。同世代や少し上の世代の人たちの活躍には勇気づけられる。かつて流行した人やものを若い世代は知らないだけで、知るとよさは受け入れられると感じた。どうせ伝わらないと諦めるのではなく、よさを若い世代に伝える努力をすることも大切だと感じた。

○　改元にあたって、祝賀ムードの中での特集編成はよかったが、そろそろこれからの時代の課題について考える番組も必要だと思う。４月２１日(日) シリーズ「広島と平成」（５）「被爆地と平成」(総合 前 7:45～8:56 広島県域)にスタジオゲストとして出演していた詩人のアーサー・ビナードさんが「改元によって物事の間に線が引かれて分かれるわけではない。すべてのことは過去とつながっていて先人の思いを引き継いで未来を創っていくことが大切だ。」と言っていたが、過去とのつながりを踏まえて将来のことを考える番組を期待したい。

（ＮＨＫ側）

改元にあたっては、「お好みワイドひろしま」の中でも広島や中国地方の平成の時代を振り返る特集をシリーズで伝えたが、中国地方にとってこれからの令和の時代がどのような時代になるのか、タイミングを見て伝えていくことも検討したい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０１９年４月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１８日（木)、広島放送局において、１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向、５月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安井　　弥	（広島大学大学院医系科学研究科　教授）
副委員長	上大岡トメ	（イラストレーター）
委　　員	伊藤　康丈	（一般社団法人イワミノチカラ　代表理事）
	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
	坂本トヨ子	（株式会社サカモト　取締役会長）
	坂本　直子	（走健塾　ランニングアドバイザー）
	鷲見　寛幸	（大山町教育委員会　教育長）
	古市　了一	（株式会社ふるいち　代表取締役）
	松嶋　匡史	（株式会社瀬戸内ジャムズガーデン　代表取締役）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）
	渡部　朋子	（ＮＰＯ法人ＡＮＴ－Ｈｉｒｏｓｈｉｍａ　理事長）

（主な発言）

＜放送番組全般について＞

○　４月７日(日)「２０１９統一地方選開票速報」(総合 後 7:59～9:45、後 10:15～8日(月)前 0:00)を見た。大河ドラマを休止して選挙結果について伝えていて、また中身も充実していて、力が入っていると感じた。全国的には盛り上がりに欠けた印象だが、広島県議選などの出口調査のデータも活用して分かりやすく伝えていた。特定の地域などで強い候補者だと出口調査と実際の得票に差が出ることもあると思うが、そういう場合、視聴者が疑問に感じるのではないかと思った。また、岡山県議選では女性の当選者が増えたようだが、広島はそうでもなかった。女性議員がなぜ増えないのかの分析や、無投票選挙の課題などについては継続的に取り組んでほしい。

（ＮＨＫ側）

出口調査は選挙結果を分析するための分析資料の一つという位置づけだ。情勢については、出口調査のほかさまざまな取材情報を総合的に判断して、表現にも工夫をして伝えている。当選確実の正確さ・素早さに加え、出口調査などを分析して全体としてどのような傾向なのかを伝えることが開票速報の大切なポイントだと考えている。選挙結果を受けて、女性や若者の当選者が少なかったこと、あるいは投票率の低さなどの課題については、今後検証が必要だと考えている。

○　４月７日(日)「２０１９統一地方選開票速報」を見た。今回の広島市議会議員選挙・広島県議会議員選挙について、誰に投票するか決めようにも、インターネットも含めて各候補者に関する情報がとても少ないと感じた。最近では若い人などテレビを持っていない人も増えているのに、調べてみると自分のホームページの無い候補者も多く、選挙に関する情報が個々の有権者に届かないことに危機感を覚えた。ＮＨＫにもインターネットを含めて個々の候補者を網羅するような情報の提供に取り組んでほしいと思った。

（ＮＨＫ側）

地方議会議員選挙だと立候補者の数が多く、すべての選挙・立候補者を取り扱うことには物理的な難しさがある。ただ、争点やテーマごとに各候補者の主張や考えをまとめてリポートするなど、選挙期間中のニュースの伝え方も以前とは変わってきている。なるべく多くの選挙について各候補者の考えや動向を幅広く伝えられるように工夫していきたい。

○　３月２５日(月)「お好みワイドひろしま特別編「お好みワイドひろしま」×「テレビ派」コラボ　プロ野球開幕間近！カープのチカラをどってん解明」(総合 後4:50～6:58.55　広島県域)を見た。カープをテーマにＮＨＫと地元民放両局のプロ野球解説者が一緒にロケに行くなど、それぞれの個性が際立ってとてもおもしろかったが、やや２人のキャラクターに頼り切ってしまっていたように感じた。次回があるのであれ

ば、それぞれの放送局の持ち味がぶつかり合うような内容になるとよいと思った。お互いにとって学びの多い企画だったのではないかと思う。

（ＮＨＫ側）

これまでも在広民放の各社とは夏の原爆関連番組の上映会を協力して開催するなどしてきたが、昨今若者のテレビ離れが課題となっているなか、これに一石を投じ、公共放送と民間放送の垣根を越えて、地域やテレビを盛り上げていきたいという思いで、今回の企画へと至った。今後については、まさに現在計画中だが、西日本豪雨や平和など、さまざまなテーマに挑戦していきたいと考えている。

（ＮＨＫ側）

今回のコラボは若手女性ディレクターがメインで担当したが、民放局のディレクターと一緒に取り組むことで、ロケのやり方の違いなど仕事の進め方でとても刺激になったようだ。互いの放送局の個性をどのように生かした放送にするか議論していきたい。

○　３月２４日(日)、３１日(日)、４月７日(日)、１４日(日)シリーズ「広島と平成」(１)～（４）(総合　3 月 24 日(日)前 7:45～8:53、31 日(日)前 7:45～8:23、4 月 7 日(日)前 7:45～8:38、14 日(日)前 7:45～8:42　広島県域)を見た。ただ過去の番組を再放送するのではなく、毎回テーマに合わせたゲストと改めて番組を見直して「今見るとどう感じるか」を聞けたのがよかった。ただ、ハイビジョン化以降の比較的新しい番組は画像も鮮明で途中から見ると再放送なのかどうかすぐに分からないので、本放送の日付を番組中でもっと丁寧に案内したほうがよいと思った。

（ＮＨＫ側）

この番組審議会でも映像資産の有効活用についてご意見を頂いているが、平成がまもなく終わりを迎えるというタイミングで、過去のアーカイブスを活用して平成の間に広島で起きた出来事を振り返ることができないかと考え、今回の編成を企画した。初回はシーズン開幕に合わせて「カープ」、２回目・３回目は平成に世界遺産登録された「原爆

ドーム」と「厳島神社」というように、毎回テーマを決めてシリーズで放送している。本放送日の案内については番組の放送中に何度か画面右下に出しているが、もう少し工夫してみたい。

○　シリーズ「広島と平成」（１）～（４）を見た。非常に見応えのある企画だった。過去の番組を使って今の視点でまた見るというのは新聞にはできない手法で、テレビの特性を生かした方法だと感心した。２回目では原爆ドームの世界遺産登録について取り上げていたが、今では当たり前に思える原爆ドームの保存について、当時賛否両論あったこと、世界遺産登録にも議論があったことを改めて伝えていたのはよかった。司会の杉浦圭子アナウンサーのゲストへの質問も的確だった。

（ＮＨＫ側）

今回、５つのテーマに沿って放送しているが、限られた放送枠の中で、どのテーマを取り上げるか担当者が考え、それに沿った番組をアーカイブスから探し出して今回の放送に至った。「原爆ドーム」の回で放送したのは世界遺産登録２日後に放送した番組で、とても貴重な番組を放送できた。また、コメンテーターを招くことで、ある程度今日的な視点も交え、当時を振り返ることができたと感じている。

○　４月１日(月)と８日(月)の「もぎたて！」を見た。新年度になり女性キャスターも替わったが、１日の放送では原稿から目が離せずたどたどしい読み方で見ていてハラハラしたが、１週間後の８日の放送ではしっかり前を向いてニュースを伝えていて、その成長にとても驚いた。

西日本豪雨から９か月がたったが、経済的な理由からまだ多くの人が仮設住宅で暮らしていることや住宅を再建する際の二重ローン問題など、新年度になっても被災地の現状を丁寧に伝えているのがよい。また、相談窓口を紹介する際に連絡先をスーパーでも案内していたのは分かりやすく、よい取り組みだ。

（ＮＨＫ側）

新しいキャスターは先輩や周囲の指導・助言を日々受けて、急速に成

長している。まだまだ不慣れなことも多いが温かく見守ってほしい。

被災住宅の課題については、東日本大震災の教訓も踏まえて伝えている。相談窓口については被災者の役に立つよう問い合わせ先など具体的な情報を示すようにしている。地域放送だからこそできる丁寧な情報提供を今後も続けていきたい。

○　４月１２日(金) さぬきドキっ！「讃岐の秘宝“衆鱗図”の謎に迫る」(総合 後7:30～7:55 岡山県域)を見た。江戸時代に高松藩で作られた日本最古の本格的な魚図鑑「衆鱗図」について取り上げていたが、鱗の一つ一つまで正確に描かれた詳細な描写に驚いた。ゲストの荒俣宏さんとさかなクンの独自の視点もおもしろく、２人が直接作品を見たときの感動が伝わってきて、自分でも実際に展覧会で見てみたいと思った。

(ＮＨＫ側)

前週４月５日(金)に香川県向けに放送されたものを、岡山県向けにも放送した。岡山県と香川県は往来も容易で互いの地域の伝統文化には関心があると考えて企画した。今後も香川県との結びつきを大切にした放送を計画していきたい。

○　４月２日(火) 「いろ★ドリ」を見た。「西日本の旅」のコーナーの舞台は鳥取県智頭町で、西尾麻菜キャスターがジビエ料理を扱っているおしゃれなレストランなどを紹介していて、町のイメージが良くなると感じた。また、気象コーナーではデータ放送の双方向機能を使ったクイズも始まり、毎週見るのが楽しみになってきた。

(ＮＨＫ側)

それぞれの町が力を入れている活動は積極的に取り上げていきたい。お天気クイズはシステムも完成して毎週放送できるようになった。視聴者の間で定着してほしいので、意見はありがたい。

○　４月１１日(木) 「情報維新！やまぐち」を見た。「Ｍｙ　Ｉｓｈｉｎ」というコー

ナーでは、山口県出身で連続テレビ小説「まんぷく」や大河ドラマ「龍馬伝」などの脚本家・福田靖さんにインタビューしていた。執筆したドラマの中には、実は故郷・山口県の場所をイメージしたシーンが数々あるという話が面白く、ドラマをもう一度見直したくなるような、魅力的な話が聞けた。ただ、新年度になって、山口県で活動する若者に焦点を当てる内容から、山口県ゆかりの著名人に話を聞くコーナーにコンセプトをリニューアルしたようだが、視聴ターゲットが年齢層の高い世代に変わってしまったように感じた。

（ＮＨＫ側）

「若者」も今年度の山口局の大切なテーマだ。「これから山口県をどう変えるか」をテーマに県内の大学生たちのメッセージを収録して放送していくことなどを計画している。

○　４月１２日(金) Ｙスペ！「野島小中学校　春物語」を見た。島には学校に通う子どもが１人もいなくなってしまった一方で、本州から連絡船で子どもたちが通学してくる不思議な小中学校を取り上げていた。地元の人たちが生き生きと学校運営に関わっていることを紹介していたのもよかった。山口県の全小中学校で、地域が学校運営に関わり、地域ぐるみで子どもを育てようとするコミュニティ・スクールの取り組みが取り入れられている。野島小中学校のことも継続して伝えてほしいし、それぞれの学校の取り組みや特色を取り上げても面白いと感じた。

（ＮＨＫ側）

野島小中学校は風変わりな学校として民放のバラエティー番組でも取り上げられたことがあるが、今回、春の旅立ちと別れに焦点を当てて番組を制作した。地方ならではの人の温かみが伝わるほのぼのとした番組になったと思う。

○　２月８日(金)さんいんスペシャル「√るーとｈｉｇｈ↑２　カニ食べた～い！弓ヶ浜半島鬼うま旅」を見た。レギュラー出演者２人とゲストのやりとりの中に地元の人を巻き込んでいく様子が温かく、楽しい気分で見られた。

○　４月５日(金) さんいんスペシャル「髭男“ヒゲダン”ふるさとへ」(総合 後7:30～7:55 島根県・鳥取県域※広島県・岡山県・山口県域では「音楽特集」として放送)を見た。２５分の中でメンバー全員が中国地方出身であることなどOfficial髭男dismの背景を伝えるだけでなく、ライブの様子も惜しみなく伝えていて、彼らのことが身近に感じられ、楽しく見られた。番組の特設サイトを公開していたのは、郷土出身のアーティストの応援にもなると思った。

○　４月５日(金) さんいんスペシャル「髭男“ヒゲダン”ふるさとへ」を見た。この番組を見るまで彼らのことは知らなかったが、地元を中心にずっと活動して力をつけ、晴れて全国デビューしたということを知って親近感が湧き、最後には応援したくなった。２曲もフルサイズで披露していたのでファンは本当にうれしかったのではないかと思う。

（ＮＨＫ側）

音楽の魅力を伝えるのか、地域の中で育まれたという地域との関わりを重点的に見せるのか、それぞれのバランスを考えて制作した。彼らの音楽性をしっかり伝える意図もあって最後に紹介した曲はフルサイズで放送した。一方で、通常の音楽番組よりも客席を撮影したカットを多用することで、幅広い世代の観客の表情や反応を通して彼らが地域に育てられてきたこと、彼らの活躍に地元の人たちも元気をもらっていることを伝えた。

○　４月１２日(金) さんいんスペシャル「平成カタリバ　～新しい山陰のつくりかた～」(総合 後7:30～8:27 島根県・鳥取県域)を見た。地域の課題に取り組む先進事例を数多く紹介していて参考になった。島根県と鳥取県のデータを比較しながら進行していたのも分かりやすかった。平成の時代を３つの期間に分けてテンポよく振り返っていたのもよかった。鳥取の農家の方の「周りを見渡したら先頭にいた」ということばに、自分たちが全国の先進事例だという自覚が伝わり、力強く感じた。また、ふだんは辛口なコメントの多い地域エコノミストの藻谷浩介さんが解説の中で、山陰の取

り組みをたくさん褒めていたのは自信になると思うので、多くの人に知ってほしいと思った。ただ、生放送で最後は時間不足でまとめがやや短絡的になってしまったのは残念だった。

（ＮＨＫ側）

今回の番組は松江局の斎康敬アナウンサーと鳥取局の是永千恵アナウンサーが一緒にレポーター役として進行した。それぞれのアナウンサーが自分の放送局がある県のデータを紹介するという形を採用したが、データを比較することでお互いに学ぶところがあったと思う。

○　さんいんスペシャル「平成カタリバ　～新しい山陰のつくりかた～」を見た。観光・農業・人口減少をテーマにしていたのは時宜を得ていたと思う。解説の藻谷さんが「山陰は世界の先生」と言っていたのには勇気づけられた。ゲストが新しい動きについて話しているとき、司会の近藤泰郎アナウンサーが「昭和生まれとしては」と前置きしながら質問するなどして進行していたので、視聴者の自分と同じ感覚だと感じながら見ることができた。

（ＮＨＫ側）

昭和生まれ・平成生まれのアナウンサーがリポーター役となって、世代の違いを自分のことばで伝えていたのも見やすさにつながったと思う。

○　さんいんスペシャル「平成カタリバ　～新しい山陰のつくりかた～」を見た。山陰の将来を語り合う４人のゲストのバランスがよく、外から来た人の意見、地元で頑張っている人の意見など山陰についていろいろな角度からの意見を聞けたのがよかった。藻谷さんの解説も的確で分かりやすかった。ただ、最後は時間が足りなくなって、まとめも早口になり何を言っているか分からないほどになってしまったのは残念だった。生放送にこだわらず、収録でもよかったと感じた。

○　３月１９日(火）先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）「道を開いた女性たち　オ

リンピックメダリスト　人見絹枝」を見た。海外遠征の苦労などの強烈なエピソードや「女性にスポーツは無理」と思われていた当時の常識、人見さんが実際に走っている映像など、どれをとっても驚くことばかりだった。当時、女性がスポーツをすることがどれほどすごいことなのか、先駆者の苦労がよく伝わった。女子マラソンで日本人初のメダリストになったゲストの有森裕子さんが「思い続けること、言い続けること、行動を起こし続けることが大事」と語っていたことは番組のまとめとしても納得できた。

○　４月５日(金)「ＮＨＫニュース　おはよう日本」を見た。西日本豪雨の被災地である岡山県倉敷市真備町で、「エプロンばぁば」という謎の人物が貼り出している、飲食店の再開など町の復興の様子を伝える手書きのお知らせが、町の人を励ましているというリポートが放送された。つらい話題の多くなる西日本豪雨関連のニュースにあって、人と人との温かさが感じられるすてきな内容で、朝からよい気持ちになった。

（ＮＨＫ側）

岡山の夕方のニュース情報番組「もぎたて！」の中で伝えたものを「ＮＨＫニュース　おはよう日本」の中で全国にも放送した。

○　「すっぴん！」と「ごごラジ！」をよく聴いている。「すっぴん！」の藤井彩子アナウンサー、「ごごラジ！」の武内陶子アナウンサーとも自分とは同世代で共感しながら楽しく聞いている。個性の強い出演者とペアになってパーソナリティーを務めている藤井アナウンサーが、時にツッコミ、時にはボケてうまく軌道修正しながら番組を進行しているのに感心している。その中でも個性を発揮していることもすばらしく、４月から新たに番組を担当するようになった武内アナウンサーにもこれからもっと個性を発揮していってほしいと期待している。

（ＮＨＫ側）

「誰が伝えているか」という伝え手の個性がラジオというメディアにとってはとても大切になっている。その中で正確さや公平・公正さな

どアナウンサーとして大切なことを保ちながら、いかに個々のキャラクターや魅力を発揮していくか、若手も含め挑戦していかなければならないと感じている。

（なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた）

○　３月２７日(金）奇跡のレッスン「書は身体がつくる　書道（前編）」「書くことは人生と向き合うこと　書道（後編）」（ＢＳ１　後6:00～6:50、後7:00～7:49）を見た。中国書道教育の最高学府の先生が１週間のレッスンで“筆の街”広島県熊野町の中学校の書道部の生徒に、身体の使い方、漢字の部首の美しさなど大胆に教える様子を伝えていた。生徒たちが西日本豪雨災害での悲しい経験から感じたことを漢字に表現する姿は美しく、また一人一人が悩みながら徐々に字がきれいになっていく様子に教育のだいご味を感じた。このような番組はこれからも継続的に放送してほしい。

４月５日(金）さんいんスペシャル「髭男“ヒゲダン”ふるさとへ」を見た。私も１０代の頃から感じてきたことだが、松江や米子のような地方都市の中にも全国に引けを取らない文化が醸成されていることがバンドメンバーや彼らの地元の音楽の師匠の話を聞いて改めて思い起こされ、そうした環境の中から全国区のバンドが育っていったと思うと大変感慨深かった。まだ広く知られていない人材や流行の芽を見つけることはＮＨＫの得意なことだと感じているので、これからも地方から全国や世界を目指す新しい挑戦を積極的に取材してほしい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局